

育教の兒幼

號 十 第 號 月 十 卷 二 十 三 第



內 校 學 範 師 等 高 子 女 京 東
會 協 園 稚 幼 本 日

大日本體育ダンス研究會主幹
 文部省全日本體育ダンス聯盟理事
 東京府青山師範學校教官
 澁井二夫先生創作

體育ダンス新教材

尋一用菊版洋裝美本
 定價金壹圓 送料金六錢
 日新刊日

内一 指導要領・教授案・術語解説・まゝごと・雨・走る小馬・さよなら・ぶらんこ・子猫・日曜日・小鳥の子守唄・山羊の子・おはよう・ひよこ・糸切蟲・汽車・ダンス・ユリル・フレンチメロデー・リットルダックス・子供供の汽車・シニューメーカーダンス・ダンス・オブグリーディング・リス・ダンカークの鐘 (以下略)

子供舞踊

卷一・卷二 洋裝美本
 定價各冊金六拾錢 送料各六錢

編輯委員並 伯林ヅクマン舞踊專門學校卒業 全日本體育ダンス聯盟理事 印 牧 季 雄 氏
 昭和保姆養成所長 全日本體育ダンス聯盟理事 土 川 五 郎 氏
 東京女子高等師範學校助教 全日本體育ダンス聯盟理事 三 浦 ヒ ロ 氏
 東京府青山師範學校訓導 全日本體育ダンス聯盟理事 澁 井 二 夫 氏
 東京府第六高等女學校教諭 全日本體育ダンス聯盟理事 戸 倉 ハ ル 氏
 東京府豊島師範學校訓導 宮 寺 嘉 一 氏

内容一般 一 リップ・キンギョ・ミヅアソビ・ハナ・ボチ・アネ・カヘル・オフネ・ワタシハニエホンセイ・サクラ・五一・ヂイ
 サン・人形ノ兵隊・小サナ遊ビ友達・雨ノヤム時・オ出デナサイ・オウマ・ナミ・ヒヨッコ・コンパツタン・オサギ
 オツキサマ・カケツコ・オヤスミ・プラシコ・ナハトビ・ユキ・ピアノ・マメマキ・ギツコ・コンパツタン・オサル
 スナバホリマセウ・ワタシノオウチ・ヘイタイ・ヒカウキ・十五ヤ・汽車ノタビ・喜ビニミチテ・國民行進曲

エホンシヨウカ

春の卷・夏の卷・秋の卷・冬の卷
 定價各冊卅五錢 送料各二錢

發賣所 東京市神田區三崎町一丁目一番地 音樂教育書出版協會

電話(33)代表四二二六・四二二八
 九段(番號)四二二七・四二二九
 振替東京六四七七〇

人生のスタートに育る兒童の常識と解決

奈良女子高等
師範學校教授

桑野久任先生著

菊判洋裝函入
紙數六〇〇頁

定價
送料

四圓五拾錢
二十二錢

最新刊

育兒講話

父たる人、母たる人、教育者たる人の味讀すべき名著

第一章 育兒及兒童

- 一、育兒の定義
- 二、育兒の必要
- 三、育兒の目的
- 四、育兒の方法
- 五、育兒の效果
- 六、育兒の責任
- 七、發育の時期
- 八、發育の諸人
- 九、兒童と成人
- 一〇、兒童は寶

第二章 胎兒

- 一、胎兒の形態とその發育
- 二、胎兒の生理
- 三、妊娠の確證
- 四、妊娠の身體
- 五、胎兒の養育
- 六、胎產科
- 七、產婆と産科
- 八、多産
- 九、誕生の前兆
- 一〇、誕生

第三章 乳兒

- 一、その豫定日
- 二、誕生の準備
- 三、誕生(外九節)
- 四、乳兒の營養材料
- 五、乳房及乳腺
- 六、乳兒の身體
- 七、乳兒の發育
- 八、乳兒の生理
- 九、乳兒の死亡率
- 一〇、天
- 一一、地
- 一二、人
- 一三、牛
- 一四、乳兒の身體

第四章 幼兒及少年

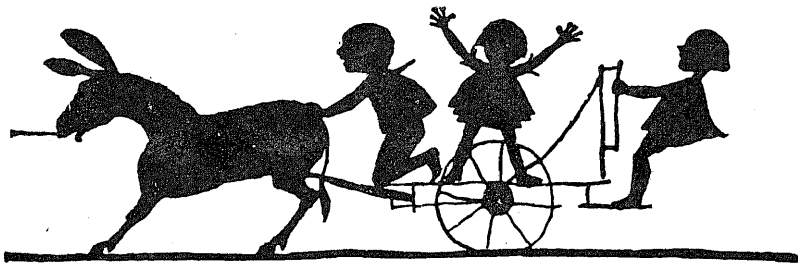
- 一、乳兒の精神
- 二、乳兒の言語
- 三、乳兒の養育
- 四、小兒の身體
- 五、小兒の發育
- 六、小兒の形態及生理
- 七、小兒の精神
- 八、小兒の精神
- 九、小兒の精神
- 一〇、小兒の精神
- 一一、小兒の精神
- 一二、小兒の精神
- 一三、小兒の精神
- 一四、小兒の精神
- 一五、小兒の精神
- 一六、小兒の精神
- 一七、小兒の精神
- 一八、小兒の精神
- 一九、小兒の精神
- 二〇、小兒の精神

東京高等師範學校教諭
廣井京太先生著

姿勢教育 (五版)

定價 三、〇〇
送料 一、二〇

東京市神田區 目黒書店發行 振替 八〇〇 東京 九〇



育教の兒幼 輯編會協園稚幼本日

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡郷甫
 主幹 東京女子高等師範學校教授 附屬幼稚園主事 倉橋惣三

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
- 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
- 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催
- 一、雜誌發行(毎月一回)
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 會長 一名 會務ヲ總理ス
- 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
- 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
- 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應ジテ二委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス



號十第 育教の兒幼 卷二十三第

—(次 目)—

口 繪 秋、一年生の作業時間(東京女子高等師範學校附屬小學校)	倉橋惣三(一)
創意なき教育(卷頭言)	草川宣雄(二)
兒童の音樂教育に就て	堀七藏(一〇)
觀察のさせ方(二)	大塚喜一(一七)
躰の二方面について	東京女子高等師範 學校附屬小學校
低學年の生活全體教育法	低學年教育研究會(二四)
一、生活全體教育法の組織	淺黃俊次郎(二五)
二、作業生活指導の實際	德田進(元)
尋一「お月見」作業の指導	永堀千鶴子(四)
「時の展覽會」作業の指導	金成みき江(五)
三、遊戯生活指導の實際	瀨野尾秀義(五)
お手紙ごつこの指導	よしこ(六)
お客様遊びの指導	倉橋惣三(七)
秋詠集	及川ふみ(七)
秋ミ園外保育	廣瀨興(七)
保育そのまきぶ	富本光郎(七)
十月のぬりゑ	大岩金(七)
秋の保育衛生	土川五郎(八)
花壇並に花壇用草花年中行事—十月	
園藝曆(十月)	
遊戯噴水	

昭和幼年唱歌

小松耕輔・梁田眞
葛原茲先共生著

清水良雄
畫伯裝釘

第一輯目次
園長先生
人參食べてる兎さん
猿はひつかく
鸚鵡のお家
蟲がはねた
ペンギン

第二輯目次
驢馬がにげる
野原はひろい
ワクノポリ
鐘を著たい
家鴨を數へませう
毬がつきたい

伴定送
奏價料
附四各
美十二
本錢錢

昭和少年唱歌

小松耕輔・梁田眞
葛原茲先共生著

清水良雄
畫伯裝釘

第一輯目次
お宮ごお寺
柿の種と握り飯
やねの上の雀
はまへの子
私の箱庭
ラヂオ體操

第二輯目次
お家にあかりがつきました
ベリカン
夕立やんで
牛と馬
めえ〜親山羊子供山羊
日暮山霧

伴定送
奏價料
附四合
美十二
本錢錢

廣島高師教諭 山本壽先生著
音樂教育の三大方面
菊判 美裝函入
定價 四、五〇

小松、梁田、葛原先生著

文部省
認定 小學歌曲選集
四六倍判美裝
定價 一、二〇

小松耕輔先生著 自第一集至第三集

小松耕輔歌曲集
四六倍判美裝
定價 各五十錢

梁田眞先生著 自第一集至第五集

梁田眞歌曲
四六倍判美裝
定價 各五十錢

小松、葛原、梁田先生著

大正少年唱歌 合本
菊判クローズ製
定價二圓五十錢

小松、葛原、梁田先生著

大正幼年唱歌 合本
菊判クローズ製
定價二圓五十錢

東京市神田區 目黒書店發行 振替二八〇番





一年生の作業時間

東京女子高等師範校附属小学校

幼 児 の 教 育

昭 和 七 年 十 月 號

創 意 な き 教 育

なんの創意もなく過ぎてゆく日の、らくではあつてもあぢきないことよ。そのらくさを求むるものはなまけである。そのあぢきなさに平氣なのは鈍である。なまけは卑しむべし、鈍はあはれむべし。いづれにしても生命の衰退である。

生命の衰退を斷片に區切つて、その日ぐらしといふなさないことになる。その日ぐらしの連續が、無爲といふ恥しいことになる。自己を盛らない時間の空過だからである。

時間の空過は必ずしも拱手徒然の間にのみ起らない。事も慌しく、事も繁き間にも、たゞ忙、たゞ繁、なんの創意もなく迎へ送られてゆく時間は、一種の空過生活である。同じことの繰りかへしで、何も新しいものを生まないのは、時間そのものゝ経過に他ならぬからである。

幼稚園は、それでもすんではゆくかも知れないが、あなたとしては、ほんとうにつまらないことだ。

(倉橋惣三)

兒童の音樂教育に就て

東京音樂學校講師 草 川 宣 雄

あるお母さんが「私は何年も何年も音樂の勉強をしたけれど、これと云つて何にも覺えては居ない、おまけに折角ならつたピアノも今は何一つひけやしない、いつそピアノを賣つてしまひたいと思ひます」とこぼすと、それを聞いて居た神經質の奥様が「子供が歌を歌つたり、ピアノをひいたり、うるさくてたまりません」と合槌をうつた。

さうかと思ふと「私のちひさい時には、音樂など誰も教へては呉れませんでした。私の代になつたら、是非子供には音樂をならはせたいと思ひます」と云つた奥様もある。或立派な地位にある方の奥様で、「女の兒には音樂をならはせなければならぬが、男の兒には音樂をならはせる必要はない、何かもつと外の大切なことをならはせませう」と云つて、男の兒には音樂の勉強をさせなかつた。此の男の兒が段々火くなつて、高等學校の生徒になつた頃、お酒が好きになり、お酒を呑めば呑む程面白く歌へる俗曲が大好きになり、遂に音樂趣味は低級から低級へと墮落し、遂に救ふべからざる罪の淵に沈淪してしまつた。この痛ましい經驗に泣き暮した奥様は、二男こそは兄の徹をふませまいと、漸く指が動くか動かないかの幼い子供の時から、せつせと猛烈にピアノの練習をさせたと云ふ事實も知つて居る。

或る親御さんは、これと云ふ定見もなく、子供が習ひたいと云ふので音樂をさせる。或人は生活のたしにもと音樂をさせる。音樂を勉強させれば、つまらない遊をしないからと思つて居られる親御さんもある。少し進んだ御考の方でも、藝術趣味を進めてやる事が出来るかと考へられる位が一番よい處である。音樂を學ぶのは家庭や朋友との交際を助けると考へる人もあれば、唱歌をすると身體が丈夫になると考へる人もある。

又は娘に音楽を學ばせると社會に出ることが出來、よい結婚の相手を選べると考へて居るお目出度い方もあるかも知れない。

音楽を勉強するわけは、自分自身の奏する音楽を喜び、或は他人の奏する音楽そのものゝ中に我を没入させる爲である。ほんとの音楽の鑑賞とは、音楽に感じ、音楽を賞美することである。

音楽そのものを聴くことを喜んで音楽會に行き、上品な音楽を樂しみ、精神に調和を與へられる様にと希望し、他人を愛することを學び、眞の幸をその中に見出すことの出來る様にと兒童を導くことが大切である。

ハルレ大學の音楽學の教授、アーノルド・シェリング博士は、「音楽教育は音楽的作品的時代と、其の形式を明にして、作曲者の意味を汲むことを得しめ、且つ其の作品の眞價を判斷することが出來る様にしてやることである」と云つて居る。又ジュネーヴの音楽學校の和聲學其他の音楽科學の教授であり、また作曲家であり、現今はリトミックで有名なダルクローズ氏は、音楽教育を説明して、「生徒の頭腦と共に其の心情を教育し、音楽を理解すると共に、これを熱愛することが出來る様に、其の美的感情を發達せしめねばならぬ。子供等に音楽に感ずることを得しめるのみならず、音楽に吸ひ込まれる様に、そして身體も心も悉く音楽に捧げてしまうことが出來る様にしてやらねばならぬ。たゞに子供等の耳を以て音楽を聴くに止まらず、其の全身全靈を以て聴く様に教育せねばならぬ」と説いて居る。

いつ頃から音楽を始めるがよいか

次に大切な問題は、兒童はいつ頃から音楽を始めるがよいかと云ふ事である。

一般に、子供は健全である限り、音楽を聴くこと、聲を出して歌ふことが好きである。一しよに歌ひ、一しよに踊ることが出來る音楽、云ひ換へればリズム的音楽は彼等の最も喜ぶものである。兒童の生活表現の様式を見ると、血液の循環

と同様にリズム的であることがわかる。走ること、運動すること、語ること、歌ふこと、すべてがリズム的に行はれて居ることが知られる。即ちリズムは彼等の内に生き、運動を起し、經驗を表現させ、演奏に模倣にと走らせるものである。

兒童の唱歌は出来る丈け早くから始めるがよい。ジャン・ジャック・ルツソーは、人間の教育は誕生に始まると云ひ、フエネロンは、最初の習慣は最も強いものであると云つて居る。妙な様子で歩くこと、妙な發音で歌ふことは、何より最つ先きに訂正してやらねばならぬ二つの大切な事である。

音楽家グノーの「藝術家の思ひ出」と云ふ著書に、「私をお子守するお母さんは、牛乳をのませる様に音楽を吞ませて下さいました。彼女は音楽なくては私を育てることが出来ませんでした。そして音楽を學ぶ事は、面倒くさいとか六かしいものだとかと云ふ様なことを思はせない様に、自然に教へて下さいました。かくして遂に音の出し方、音程の歌ひ方がわかる様になり、長調と短調との區別がつく様になつた。或日のこと、乞食らしいものが歌を歌ひながら街を歩いて居るのを見ました。その歌は短旋法の曲であつたので、お母さん、なぜあの人は歌を歌ひながら泣くのですか、とたづねたものだ」と記されて居る。前にも述べた如く、唱歌はリズム的言葉の發表の媒介者である。兒童は唱歌によらねば、如何なる感情をも發表することが出来ない。兒童に印象を與へ刺激を與へるもので、唱歌位強いものはない。又唱歌は美についての親しい經驗、美を創造する力の意識を與へる。即ち兒童に、その心と身體と感情を包む美の體驗と喜悅を與へ、他人の作曲を歌ふに止まらず、彼等自身で作曲を試みる處の、美を創造する力を與へるものが唱歌であり音楽である。

唱歌を學ぶことが早ければ早い程、後年に於て彼等を喜ばせる處の聲音の自由を建設し、且つその身心を、廣い自由の天地に解放させ、飛翔させることが出来る。また唱歌を學ぶことが早ければ早い程、聲の精巧さ、耳の鋭敏さ、よい音楽に耳そばたてるよい習慣を、早く建設することが出来る。

兒童の聽音能力の發達

初生兒に於けるオイスタキー氏管、及びこれと直接關係ある諸腔は、胎兒時代と同様、水を以て充たされて居るので、空氣が入りこむ事が出来ない状態にある。即ち初生兒は、其の初期に於ては通例聾である。然らばいつ頃から耳が聞える様になるかは甚だ不明である。蓋し、いつ頃から聞えるかと云ふ事は、初生兒の耳の近くで音を鳴らし、初生兒がこれに對してどんな態度を示すか、その四肢の動かし方などから判断するのである。

まだ四週間目位では、耳の傍で相當大きな音がしても、一向感じないらしいので、まだく聾の状態にあることがわかる。偶々、音のする方へ顔を向ける様に見える事もあるが、これは反射的に行はれるもので、決して意識的に行はれるものではない。しかし三ヶ月目、若くは四ヶ月目になると、音がどつちの方向から來るか云ふことが、はつきりとわかり音のする方に顔をむけたり、身體をむけたりするので、音を正確に聽く力があることがわかる。

初生兒に於ては、聽覺の方が視覺よりも早く發達するものであることは、初生兒が未だ母親の顔を見ることが充分出來ない中に、母親の聲が聞えるので、その欲望を母親に訴へ様として、いかに哀れつばい聲を出して泣くことの事實からもよくわかる。コンペーレも、その「兒童精神の發達」に於て、「兒童の美感は、音樂のみの根原的偏愛の形式に於てあらはれ、他の如何なる感情よりも早く發達するものである」と説いて居る。

又クルト・ヴァルターの實驗によれば、赤兒は六十七日目には母の聲を充分に聞きわけることが出來ると、彼の著「兒童の肉體的精神的發達」に記されてある。

兒童は決して耳にした音を、即座に眞似することをしない。先づ音のする方に向き、目の助けによつてお話や唱歌の聲の出る口を見つめる。かくして次第々々に口形と發音とを結びつけるものである。

兒童は刺激の許容によつて音性質を明に區別し得る力がある。鈴の音やトライアングルの音を好むものもあり、ピアノの音を好むものもあり、歌の聲を好きなものもある。しかし兒童は決して大きな聲、荒々しい音を好まぬのみならず、非常にこれを忌むものである。

ペルリン音楽學校の副校長であるシュエネマン氏の語る處によれば、三年七ヶ月兒童が、お父さんの大きな聲でタンノイザーを歌ふのを聞いて、素晴らしい不興氣な面持で、「パパの聲は馬方見たいですねー」と云つたと記され、更に此兒童はチタラの音や、殊に母親や姉妹達の唱歌の聲が好きであると記されて居るが、此れが大體の兒童に通有な聽音上の性質である。

兒童の模唱には、意識的に發達するものと、無意識的によるものがある。四才頃になると、音色、噪音、樂音、リズム等を注意する様になり、これと共に兒童の發聲諸機關が發達し、相當なよい模唱が出来る様になり、日に／＼色々な音リズム、歌等が耳の外で鳴り響くのがわかる。兒童等はこれを聞いて踊り出したり、聲を用ひて模唱する様になる。かくして彼等は自分で唱歌を練習し、改良し、反覆する様になる。しかし噪音及樂音の數々は、無意識的に彼等の迎へる處となり、大人も氣付かない様な様々な言葉、話し振り、旋律、噪音、樂音などが、兒童に大なる印象を與へて居ることが知られる。

此處に於て音樂の教育にあたるもの、兒童の教育に任ずるもの、注意せねばならぬ大切な問題は、兒童の環境の整理、即ち兒童の身邊から不良な音樂を驅逐すること、其の幼時より常に純粹にして良好な音樂を聽かせることである。

大教育家ベスタロツチは、その教育説の一つとして社會生活の必要を説き、特に家庭生活を重んじ、母性愛を教育の根本原理として居る。彼は云ふ、「母の居間には音樂が響かねばならぬ、特に母は其の取扱ふ音樂が神聖なものであるか否かを識別する力を持つて居なければならぬ」と説いて居る。彼の名著「リンハルトとゲルトロッド」の中に、「ある土曜日の

夕方、マウラー・リンハルトが家に歸ると、子供等はさつぱりした身形で、お父さんを待つて居る處であつた。母親は仕事の合間々に、子供等がすっかり覺えてしまふまで、少しのあきた様子もなく、休息もせず、本も見ずに一つの歌をせつせと子供等に教へて居た。父親がはいつて來た時、子供等は母親といつしよに歌ひとつつけて居た。母親と子供とが餘り晴れやかに心安らかに歌つて聽かせてくれるので、リンハルトは眼に涙をたくえて、天國に住むおまへ方には、憂さもつらさも消えて行つて仕舞ふだらうと云つたと記され、更に、家庭に聞える安らかな樂しさは、詩人も到底よく書き記す術を知らない事であらうとペスタロツチはつけたして居る。

話はよい音楽を聽かせねばならぬと云ふことに歸つて、子守唄等は此の目的を達するには良いものであると云はれて居る。但し男兒は子守唄を好かないとエルヴィン・ヴァルカーは其の著「音樂的體驗の發展」に述べて居る。

また幼稚園では家庭と協力して、六才迄はマーチやスキツピングによつて規則正しい拍子の觀念を持たせる様仕向け、また兒童の一般的に創作的、受容的能力をも發揮させることが大切である。

歌を歌ふ練習

次に大切な練習は旋律即ち節を歌ふ練習である、兒童は鳥と同じ様に他人の歌を模倣して歌ふものである。

自然は兒童に模倣性を賦與してくれた。大概の子供は大きい音には氣をとられるが、音の性質や色々な音色を區別することが出来ないものである。それ故兒童には音に耳を傾けることを學ばせなければならぬ。音に耳傾けさせるには先づ耳に聞えた音を模倣し、柔い咽喉でこれを歌ひ出すことを學ばせねばならぬ。それ故兒童に模倣させる教授者、指導者の歌は模範的な美しい良いものでなければならぬことは説明を要さない。やゝもすれば五線譜表上にはされぬ音符によつて、兒童に正しい唱歌を學ばせ様とするものがあるが、これは兒童の唱歌の心理を無視した指導法で、かへつて兒童に

唱歌を嫌悪せしめる基となるものである。

記號を考へるに先だつて物を教へねばならぬ、知識を與へる前に輕験させなければならぬとヘルバルト・スペンサーが云つた様に、樂譜を見せる前に先づ歌つて聞かせ、且つこれを模唱させねばならぬ。

兒童の即興曲

次に大切な問題は兒童の即興曲の事である。兒童はなんでも歌にして仕舞ふ面白い性質がある。お人形さんをだいては自作の子守歌を歌つて聞かせる。鐵砲を持つと自作の軍歌を歌ふ。ひとりぼつちの時は口を噤んで進行曲風なものを歌ふこれが兒童の即興曲の端緒である。兒童は創作的のものである。即興作曲は教授案上の要求ではなく、教授に於ける兒童の性質よりの要求である。

即興曲とはどんなものかと云へば、「お早う御座います」から始めて、兒童の心にある氣持や欲求を、普通のお話よりも少しく際立つた調子、即ち唱歌の節らしいもので發表させることである。

兒童の作曲の仕方を見ると、決して音樂大家のする様な方法ではなくて、瞬く間に、今迄學んだ歌、覚えて居る節、練習した歌や曲から集めた歌を作り、これを歌ふと云ふやり方である。

ウイリアム・ジェームスは、其の著「教師に告ぐ」に於て、今迄の音樂教育に於ては、兒童の藝術的成長の偉大さについては何等の注意を拂はなかつたが、將來の音樂教育は兒童の中にある創造力の開拓を目的とするものがある。兒童の幼時に於ては、物質についての感覺的財産に最も少くの興味を持つて居るものである。

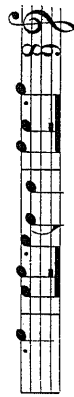
即ち構成、組立は彼等の中に働く最も力強い本能である。

文學と音樂に對しては、大概の兒童は根本的の發明の力を多分に持つて居る。そして若し若干の經驗を積んだ時には、

自分で小さい曲を作ることが出来る様になるもので、一旦自作曲についての新鮮味をあちはふ様になれば、實に嬉々として手の舞ひ足の踏む處を知らない。なほジェームスの語る處によれば、あの可愛らしい幼稚園の児童でも、保姆が、

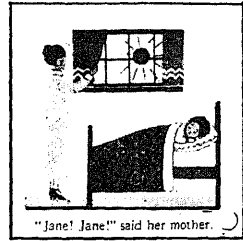


と歌つて聞かせると、別にかういふ作曲を任せて見様とか、かういふ技巧を用ひて見やうとか云ふ考なしに、即座に、



と可愛い聲で歌ふことを聞いたと記されて居る。かうした即興的な歌ひ方は、やがて作曲への一歩を確かに作つて行くものである。またジェームスの語る處によれば「ねんねんよー」の歌に曲をつける様に子供等に命じた。勿論此の時の内容其他についての暗示は毛頭與へなかつたが、作曲して見ませうとは児童達は早速承知した。すると児童の全部が示し合せた様に、八分の六拍子の曲を作つて來た。そのわけを聞くと、八分の六拍子にすると赤ちやんが一番よく眠ると答へた。或る一人の児童は魅力に富む節を短旋法で書いて來た。其のわけを聞くと、此の子守は悲しい味があり、夢心地のする歌であるから短旋法にしたのです、長旋法で書くと明るすぎて嬉し相に聞えるので、赤兒の眠を醒してしまふと答へた相である。

こんな問題は作曲した児童達には、誠に些々たる事であるかも知れないが、音楽を教へる自分にとつては、かういふ方法で音楽を教へて行けば、児童の想像力と創作力を旺盛ならしめるに充分なものであることを深く悟つたと記して居る。



(前號實例(二)參照)

觀察のさせ方(二)

堀 七 藏

五、統覺發達の實例(三)

尙ほ統覺の發達を檢するため、兒童に一分間牧牛の繪を觀察させた後、その繪をとり去り觀察の結果を想起して記述せしめた文章を読みませう。各學年四人づつあります。が、似寄りでありますから一人宛の記述を朗讀いたしました。比較して下さい。だんく複雑に關係的に統覺し、それに情趣が加味せられてゐることがよく分ります。

一年 男 イヒモト

コドモガ ウシノチチヲシボリニイキマス。ウシハ、モウモウトナイテイマス。ムカウニウシノ、イヘトス、ギノ、キガアリマス。ムカウニウシガ ニヒキイマス

二年 男 碧 海

うしが三びきぬました。うしごやもありました。子供が二人でうしになにかやつてゐました。むかうのはうにはたがみえました。木がたくさんはえてゐるところもありました。

三年 女 川 崎

女の子が、いすを持つて、男の子が、ばけつを持つてゐます。うしが三匹ゐるから、そのうしのぎゆうにゆうをとるのでせう、むかうに大きな木があつて、そこにうしが、こないやうにかこえがしてあります。そこに家があつてそこにもう一本か二本あります。ひろいのはらです。

四年 女 海 田

牛が三匹ゐて、牛使らしい男の子と女の子が牛を引つはつてゐます。女の子の手にはちちをとる道具をもつてゐました。二匹の牛ははなされて、ゆかいさうに運動してゐます。向つて右かには牛ごやがあつて、くるま等がゐてあります。空にはよいお天気と見えてすこしくもがかかつてゐます。

五年 女 廣瀬

白いぼうしに黒いすじの入つてゐるぼうしをかぶつた九歳位の西洋人の男の子と、白いぼうしに赤いリボンがついてゐるぼうしをかぶつたやはり九歳位の西洋人の女の子とが茶色と白のまだらになつてゐる牛をひいて牧場を歩いて居ります。たぶん此の子供二人は友達でせう。

向ふの方にも同じやうな牛が二匹居ります。男の子は赤



い洋服に青づぼんに青いくつ下をはいて、女の子は黄色な洋服に青いくつ下をはいてゐます。繪に向つた左には牛ごやが小さく見えます。色は茶色で木で造つてあります。牧場のかこひの向ふは茶島があつて、となりには緑の島がありま

す。緑の島には何にか植つてゐるのでせう。そのとなりもあるのでせうが牧場に木が澤山生えてゐるので見えません。空は白い雲が一すじ太く横たはつてゐて、あとは美しいきれいな青い空が見えます。

六年 女 西脇

赤い上着で青いズボンをはいた男の子と、黄色の洋服を着た女の子が大きな牛をつれて歩いてゐる。男の子はバケツを持ち、女の子は椅子のやうな物を持つて如何にもうれしさうである。その横を牛がつのを立て、ゆつくりのどかに歩

いてゐる。大ていお父さんの言ひつけで廣くて自由な野原へ連れて行くのであらう。

向ふ方のこい緑をした木の前で、二匹の牛がさも見送りを、やうに並んでゐる。この牛達は小さな可愛い、御主人のお歸りをおとなしく待つであらう。その横には物置のやうな家があり、荷車が置いてある。家の横には小さいさくがある。その向ふの空はどこまでもくすみきつてゐるのであらう。その青い所へぼつかり浮んだ白い雲。とてもよいつり合である。

田舎は實にのどかである。

高一 女 藤 田

空のすききられた廣い野原の先には一軒の西洋館の家があつて、其の後にはかき根をはられた中に、田か島の様なのがあり、其の家の前に牛が二匹氣持よささうに遊んでゐる。

赤い上着を着て青いヅボンをはいた男の子と女の子は白いので赤いばらの花の飾のついた帽子をかぶり、黄色の洋服を着て、男の子はバケツを持ち、女の子はバケツの裏らしい物を持つて、仲よく歩いて居る。後に牛はしかたなさ

さうな不平らしい顔をしてついで行く。子供はえさをやるのが牛には分らないらしい。多分やるのであらうが牛は不平らしくつままとふ。

高一

佐々木

空は緑にはれて氣持よく、處々に眞白な雲が浮いてゐます。遙か向ふの方は少し高い丘の様になつてゐて、黄色く何か畑の様で、そこに黒い線が横にすつと通つて居ます。少し手前に茶色の屋根に紫と白の壁の家があります。家の少し右側に柵が出来てゐて、又その右は木の一ばい茂つてゐる所です。すつと手前に緑色のくさが生えてゐて、その上に二人の子が立つてゐます。一人の子は白い地に赤いリボンをつけた帽子の間からふさ／＼とした金髪を出してゐるし、一人の子は男の子らしかつた。前の子供は何か三脚の椅子の様なものを持ち、一人の子はバケツの様な物を持つてゐる。二人の直ぐ後には大きな體の牛が白と茶色のまだらな體をのそりとして立つてゐる。又はるか向ふの方に、やはり白と茶色のまだらの牛が二匹親しげに語りあつてゐる様に見える。二人の子供の直ぐ後にゐる牛はまる／＼と

肥えてゐる。地面は向ふの方が高く、手前の方が低い坂になつてゐて真中に道がある。

さてこの牧場の景色を表現した繪を観察した兒童の發表

が段々詳細になり、また情趣が加つてゐることがまことに明白である。第五學年から格段の進歩を示すことは勿論、文章表現が上手になるためもあるが、また統覺作用が著しく進歩し觀察が精細に行はれることを物語るものである。

六、統覺發達の實例(四)

最後に兒童の前に提供した繪は可也複雑した小さなものである。大人が見てもその全體がまとまつたものかどうかも中々分らないし、部分々々も一寸判斷のつき兼ねる材料である。それで兒童の判斷には中々の相違がある。



ヒトガイヌラツレテイキマス。コチラノホウニベースボ
ルラシテイマス。ムカウニヒトガヒガサラモツテイマ
ス。

一年 男 飯本

二年 男 碧海

あひるが二はゐました。犬をつれた人もゐました。こどもが二人でやきうをしてゐました。うしもゐました。小さな子どもがひとりでなにかしてあそんでゐました。

女の人があんまりあついでかさをひらかうとしてゐました。女の子が一人でおもちやのうまでくるまをひいてあそんでゐました。

三年 男 海老原

こうゑんの、のはらでいろくの人たちがあそんでゐます。牛が一匹ゐます。あひるもゐます。あひは二匹です。

ある二人の男がキヤツチボールをしてゐます。

にもつをつんでおもちやの馬にひかせて行く女の人があります。男の子どもがへんなものをつるしてゐます。女の大きい人が一人はからかさもつて牛をつついてゐます。一人はそれをみてゐます。あるしんしが大きないぬにひもをつけてあるいてゐるときゆうに犬がはしりだしたのでそのあとをおつかけてゐます。

四年 女 海 田

いじんさんの國の公園で。七人の人がやきうやおもしろいことをしてあそんでゐて、犬は二匹ゐて、がてうが二羽ゐて、とりのはねが一つおちてゐます。

おもちやのうまのうしろに、肉がたくさんのせてあつて、其のあたりは芝でいつばいです。二人の女の人はいより傘をさして長い洋服をきてあるいてゐます。女の人のうしろに犬が一匹ゐます。犬をつれてあそんでゐる人もあれば、さんぽをする人もあります。まつしよう面に木がたくさんしげつた所があります。世の中はさまざまである。

五年 女 村 林

廣い廣い廣場がある。此處には芝が生えて居ります。西洋人がいく組でもピクニックをしてゐます。かたはらの方にがてうがちよこく歩き廻つて居ます。芝の中に一すじの道がまがりくねつて居る中程で花むこと花嫁とが居る。これもやはり西洋人である。花嫁さんはハイカラなパラソルをさして居ます。花むこさんは大きなシルクハットをかぶつて居ます。又こちらには十八位の女の人が赤ちやんを入れておくうば車の中になんだか、さつぱりわからない黄色い物が入つて居ます。此のピクニックは皆たのしきさうです。

六年 男 穴 道

子供や大人がたくさんゐる。家鴨が二羽居て、何か話してゐるやうだ。一羽は羽をひろげてゐる。小さい子供も居て、おもちやの馬になんかをひかせてゐる。

僕達ぐらゐな子供が野球をやつてゐる。一人はバットを持つて立つてゐる。もう一人は球を持つて今なげたところだ。二人しかゐないのにほんとうの野球のつもりであらう。

その向ふには大人が犬を引いて居る。その人の犬は向ふに立つてなにか話してゐる二人の人の後に猫がゐるのを見

て一生懸命その猫に飛びかからうとしてゐるが、犬を引いてゐる人が手を放さないの、どうも飛びつけない。大人の人でも犬があまり向ふへ行かうとするので行かせまい行かせまいとして腰をまげながらがんばつてゐる。そのやうすはとてもこつぱいである。

向ふに居る二人の人はそんな事には一向平気でずつと向ふの方の景色をながめながら色々な話をしてゐる。猫も犬をこはがつて二人の人の後へかくれてゐる。かうがいの野原も面白い。

高一 女 藤田

廣い野原の中頃に細い道がうねり通つてゐる。その先には男の人とこうもりを持つた桃色の洋服を着た女の人があるかと思ふと、道の中頃には青いせびろの洋服を着た男の人が犬の首に繩が掛けてあるのを、犬が行かうすると繩



(照 參 (一例實) 號 前)

を引張つて犬が大變苦しさうに見える。道の右側には牛が一匹、いうくと歩いて居て、左かには二人の男の子がまりなけをしてゐるかと思へば。又小さい男の子が車に袋の様なものを積み込んでおもちやの馬をつけて遊んでゐる。

さう思ふと白いきれいなアヒルが二羽、羽をひろげて遊んでゐる。又男の子が何か一つものをぶら下げてうつむいてゐる子も居て、野原は非常にぎやかだ。

高二 女 森

ながらあるいて居ります。幼い男の子はおもちやの馬に何かひかせて可愛らしい手にむちを持つて馬をうつまねをし居ります。男の人が犬のあばれるのをとめて居ります。

五つか六つ位の男の子がしばふの上にすはつて何かいたづらをして居ります。そのそばには二羽のあひるが何かにおどろいたやうに面白いかつこうをしてとんで行きます。馬をひいてゐる男のそばにボールを下に置いて何か木みたいのでそのボールをもう少しでうたうとして居ります。

この例に於ても一年では、一、人が犬をつれてゐます。

二、こちらの方にベースボールをしてゐます。三、向ふに人が日傘をもつてゐます。と、僅かに主要な三事項しか上げてゐない。しかし人と犬、人とベースボール、人と日傘と人を中心にしてゐる點は注意すべきである。二年になると、一、あひるが二羽ゐました。二、犬をつれた人もゐました。三、子供が二人で野球をしてゐました。四、牛もゐました。五、小さな子供が獨りで何かして遊んでゐました。六、女の人があんまり暑いのでかさを開かうとしてゐました。七、女の子が一人で玩具の馬で車を引いて遊んでゐました、と七事項を上げてゐる。個物を羅列してゐるのであるが、殆ど残りなく觀察してゐる。そして各個物の動

作、活動を大體正確に觀察してゐる。所が第三學年になると先づ「公園の野原でいろ／＼の人達が遊んでゐます」と總括をなし、それから個々のものゝ活動を一一觀察してゐる。しかも活動的な方面が發表せられてゐる。また第四學年でも先づ「異人さんの國の公園で七人の人が野球や面白いことを遊んでゐて、犬は二匹ゐて、鶯が二羽ゐて、とりのはねが一つ落ちてゐます」と繪に現はれてゐるものを總括的に述べてゐる。不思議なことには牛が忘れられてゐる。そして個々の主要なもの、殊に二人の女と犬につき比較的詳細な解説をなして、前後に「世の中はさまざまである」と結論を述べてゐる。第五學年も第四學年同様「廣い／＼廣場がある」と述べて最後に「此のピクニツクは皆たのしきさうです」と情趣的な結論を下してゐる。

第六學年では相當情趣的な方面を觀察してゐる。殊に犬と猫との動作が大變詳細に述べられ、それぞれの動作が情趣的に取扱はれ、最後に「郊外の野原も面白い」と結んでゐる。高等科に至つても第六學年と大差がない統覺が行はれてゐる。大人でもまづ大體同様な統覺しか行はれない位である。

躰の二方面について

大塚 喜一

今秋の關西聯合保育會に京都市から『幼兒の躰方について』といふ談話題が提出されてゐるのが特に注目に値する。苟くも保育に従事する者にとりて、幼兒の躰方とか訓育とか性情の涵養とか其他之に類する言葉を以て表はされてゐる教育事業は、最も困難にしてしかも重要な問題と痛感せられてゐる事であらう。『教育は人をして人たらしむるにあり』との一般目標は我等の受持つ幼兒教育に於て如何なる姿態を以て現はれて來るものであらうか。基本教育の特質から見て保姆としての獨特の努力は此の方面に如何なる形態に於て爲さるべきものであらうか。吾人は讀者諸士と共に保育者としての使命に立脚してこの問題を考へて見たいと思ふのである。

幼兒の躰方と云へば、先づ普通に考へられるのは善良なる習慣の養成といふ事である。父母に對して先生に對し友

達に對して斯くすべし斯くすべからずといふ實行要目を教ふる事である。幼稚園令施行規則第一條の中に『常ニ善良ナル事例ヲ示シテ之ニ倣ハシムコトヲ務ムヘシ』と述べてある通りで、其の必要な事は今更云ふまでもない。しかし意識的計畫的に幼兒をして倣はしめむとして爲したる模範は其効割合に薄く、却て不知不識の間に保育者の人格的感化が幼兒の性情に浸潤して行く『無爲にして化す』ともいふべき影響の深きを思へば、『善良なる習慣』は幼兒よりも先づ保姆その人に求めねばならなくなり、茲に躰方の問題は保姆の修養の問題に歸する事となる。かくして、

躰の二方面

遠心的——性情の涵養——無意識的感化

求心的——善良なる習慣の養成——具案的指導

基本教育の本質原理としての『未分化の教育』より云へ

ば一々の徳目を標準とするよりもそれ等の根源ともなるべき幼児の純なる性情の涵養こそ保育者の使命として特に努力すべき要點である。これについては昨年七月文部省の講習に於て倉橋先生が『**幼児性情の涵養**』なる題下にいとも懇切に述べられたる所に學ぶこと大なるものがある。本講に出席し得ざりし方は本誌昨年九月號の筆記と幼稚園雜草中の『うるほひ』『まこと』『親しむ心』『斯く育てたしと思ふ事』等の項とを心讀してせめて其大體の精神だけでも感得せられたいと思ふ。

嘗て本誌本年一月號四四頁に紹介したる**福島政雄先生著『日本女子教育學』**中の一節にこゝに引用するにふさはしい所があるから、左に記して話を進めて行きたいと思ふ。

(前に記したるつゞきである)

x

イタリアの小説『**愛の學校**』といふ書物を讀んだことのある人はその中に次のやうな話があるのを記憶してゐるであらう。

新しい受持の先生が書取をしなから机の間を歩いてゐ

ると、顔に赤に粒々の出てゐる子供がゐた。先生が書取を中止して兩手でその子の顔をはさみながら、どうしたのか、熱はないか等と尋ねてゐると、先生の後の子供がフイと腰掛の上に立つて操人形をやり出した。先生が不意に後をむかれたので、その子供は落ちるやうに腰をかけたが、首をたれて叱られるのを待つてゐる。すると先生はその子の頭を撫でながら『またとそんな事をしないのですよ』と云はれる。ただそれだけである。

書取がすんでから、先生は少しためらひながら、しかし靜かな親切な聲でかう言はれた。『皆さん、私共はこれからこの一年間を一緒に過すのだから、これを善く過さうではありませんか、私には一人の家族もありません。皆さんが私の家族です。去年までは母が生きてゐましたが、母が死んでからは全くの孤獨です。皆さんの外にこの世界中に私の家族は一人もありません。皆さんは私の子供です。皆さんは全級一家族となつて私の慰藉となり、私の誇となつて下さい』

放課の鐘がなつて皆が靜かに立つた時、操人形をした

子供は先生の側に行つて慄聲で『先生許して下さい』と言つた。

この先生の態度にはうち開いたところがある。心の扉を開放して子供達のとび込むに任せ、ともに喜びともに泣いて、手をとらあつて人間の道を進まうといふ親切と同情とがある。それで悪戯をした子供もすっかり悔悟したわけであるが、恐らくその外の子供達もみんなこの先生が好きになつたのであらう。そして喜びも悲しみもちあけられるやうな親しみを持つたに違ひない。先生もまた子供達が自分の子のやうにいとしく感ぜられたであらう。教育はこの二つの心の融和から出發するものである。

×

保姆諸彦はこの一節を讀んで如何に感ぜらるゝか。母を求むる心の子供たちの方へ持つて行つてゐる……この子供の自覺に入れる先生の態度から、子供たちに對しておのづから融和の心が湧き出て來てゐる情景が切實に表現せられてゐるではないか。

愛は愛することによつて憶はる。

ベストロツチー

小原國

恩師小西重直先生の著書『教育の本質觀』（玉川學園發行）を購入の際小原先生にサインを求めた時、斯く書いて下さつた。まことに至純なる愛こそは教育の生成すべき淵源であり母胎であり、人の子が人として生長すべき生命の源泉である。或る夜、幼兒の性癖矯正に關する同志の友の涙ぐましき體験談に心耳を傾けたる時、僕は長大息の後、『性癖矯正は愛と理解から』と叫ばざるを得なかつた。次に記すはこの友からの音信の一節である。

×

床の中からお便り申上ます。先生にお便り申上げて翌日（十九日）幼稚園で足に犬にかまれました。その朝は頭が痛く家を離れるのがいやで、殊に父母がなつかしく涙ぐましい氣持で父母をみつめながら思ひきつて家を出たのでした。こんな私事におぼれてはいけません。幼稚園には責任の重い仕事があるのだ。可愛いゝ子供達が待つてゐるのだ。

……と思ひつゝ道を急ぎました。

晝まで楽しく過し午後一時一寸前、子供とお庭で遊んでゐると、突然犬のケンカが始まりました。小さい子供達五六人とともに連れて逃げる事は出来ませんので私は一生懸命に子供を抱きしめてゐました。そこへ小さい方の犬が私の足の許ににげて來ました。大きい犬はとんで來てその小犬とまちがへて私の足をブツリとかみました。その時、あゝ、私でよかつた、子供でなくて！子供でなくて！と思ひ、いたみも感じませんでした。すべての仕事をすませ、家に歸り母の顔を見たら、ただ情ない思ひがこみ上げて來ました、足もはげしく痛み出しました。

二日、床の中で過し三日目幼稚園に出ました。ただく子供に逢へたうれしさと、皆様の御親切に感謝して一日を過し、歸つて來てまた發熱、傷の方は大體よくなつたのですが、今日まで幼稚園の方をおやすみしてしまひました。幸ひ日曜日や祭日は心のどこかに休めますが、平日は子供の事や先生方の事を考へると申譯なくて早く起きて行きたい〜と心のみあせります。でも、とう〜行かれる日が

來ました。

明日！子供も私も新鮮な氣持で相ひ逢ふのです。毎日逢はない。それは淋しいかも知れないけれど、然しお互にお互の尊さ切實さを深く味ひかみしめる爲には、むしろ喜ぶべき事だと思ひました。私も幼稚園なしの、いや子供達なしの生活は、私にとつては意味ないといふ事がはつきりわかりましたし、子供達も切に〜私の來るのを待つてゐるといふ事を知りました。

私ほも一度、幼稚園にとびこんでゆきます。やさしい、靜かな、なごやかな母の心もちを胸に抱いて。

x

子供達を自己の生命の一部として要求する心の態度こそ、實に我等の眞實なる道であると思ふ。この純なる一道に參する者にして甫^{さき}めて其一言一行に光あり、たとひ言葉を用ひてゐる時でもその先生の心は子供達の心の中に根をもつてその生長を保育してゆくのである。斯く觀じ來れば『愛の學校』の例は幼児の訓育管理といふ方面にも貴重な教訓を吾人に與ふるものである。若し教師が警察官にも

似たる態度を以て惡戯を爲せる子供を叱り飛ばしたならば、彼は止むを得ず其の命に従ふたであらう、全級の兒童は其威嚴にピリツとしたであらう。しかし、斯かる教師は子供を従へ得る自己の手腕を誇る事ありとも、自分が子供に従つて行く心の經驗を味はひ得るであらうか。まして子供たちと共に生きる心もち、寧ろ子供達のおかげで自分が生かされてゆくといふ感激感謝の涙にひたる事は思ひもよらぬであらう。現今保育の實狀より云へば、多くの幼兒達を狭い所で保育してゐる故に、いたづら、ケンカ等管理を要する事件が屢々起り時には本意ならずも制止せねばならぬ事もあらう。かくして外的な言葉や動作を用ひねばならぬ事ありとせば、尙一層内面的にその先生の性格として子供に忠實にして親切なる態度が必要であり、絶えざる心のうら、ほ、ひが内からあふれてゐなければならぬ。(本年一月號卷頭の言『親切』参照)吾人は保姆養成の中心問題は實に茲に存すと思ふのである。外的管理さへ經驗と熟練とを要する。まして保姆の心の態度は多年自ら内に養ふ間に自然に徐々に育成さるゝものであるから、始めて幼兒の友となつ

て純眞なる處女の感激に生きつゝある保育實習生時代より斯かる心を養ふを以て、第一義の中心目標とせねばならぬ。それは彼女達を其の本然の若さに於て生かす所以であり、同時に保姆として最善の生涯に入る道である。此事は目下小生の胸裏を往來しつゝある最も大切な問題であるから他日稿を新にして諸賢の教を乞ひたいと思ふ。

訓育管理に關する實際上の諸問題は、實地の經驗少なき小生の到底盡し得る限りではないが、茲には其根本的な態度に就て諸賢と共に考へたいと思ふのである。一々の實行要目を個々別々に幼兒に求めて行く時は、利害得失は夫々の場合により極めて多岐に分れて行くこととなり、或は、『角を矯めて牛を殺す』の弊に陥る事もあるべく。斯くては幼兒の生活全體を、**生きた姿に於て保育す**との本義と全然反對の憂ふべき結果に終るであらう。我等が保育者の職責上幼兒に求めざるを得ざる實行要目も、『斯く行ひ得るには?』と幼兒の現在の生活に忠實にして同情ある心眼を向け來る時は、外からは惡癖や非行と見做さるゝ一々の行爲の源には、幼兒としては極く自然の當然の情緒、本能、欲

求、衝動等が動いて居り、それが周圍の狀況がこれを適當に子供らしく現はさせて呉れない爲に暗々裡に出よう／＼として道を求めて苦んでゐる氣の毒な抑壓の下に潜在してゐる事を發見する事がある。(精神分析學的考察を参照せられたし)かう氣が附いて見ると、子供が悪いのじゃない、實はこちらが行届かないのだと反省されて來て、教聖ザルツマンが『教育者たる者は、自分の教へ兒の一切の過失や非行の因由をば、省みて自分自身の上に求めなくてはならぬ』と誓はしめたる信經の至當なる所以を知るであらう。

(ザルツマン原著、村上珊瑚雄譯『教師と父母との再教育』参照)

×

この稿を終るに當り、小生の日頃敬服してゐる或る先生の保育を親しく參觀させて頂いた實況を最後に紹介する。此事實は、保育の眞の價値は保母の心の態度如何に依て定まるものなる事を明白に物語つてゐる。

保育室でのお辨當の時間、幼兒達は袋やふる敷からお辨當を出して各自の前に置いた。お茶が配られ終ると先生は

「さあ、みんなお茶を入れて頂きましたね」と、靜かに姿勢を正して眼を閉ぢられた。幼兒達もみんな眼を閉ぢて靜かになつた。僕も眼を閉ぢた。……沈黙數秒。漸らく靜かであつたが、ふとかすかに聲がきこえるので僕は眼を開けて見ると、二三人の子供が何事かささやきながらあちこち見まわしてゐる。子供の視線はやがて先生の方へむいた。先生はさつきから眼をつむつたまゝじつとしてゐられるのでそれを見た子供は又もとの平靜に歸つた。

お辨當を頂きながら僕は先生に『いつ頃からこういう風にしてゐられますか』と尋ねたら『これ位(一分間位か)するのは二年程前からだが、それ以前はもつと時間が短かつた』との事。聞けば先生自身靜座をしてゐられるのださうだ。

實は今日もこの原稿を書きつゝ丁度十一時になつたので、今一度この實景に接して新しい感觸を以て書きたいと幼稚園に先生を訪ふた。お辨當の時は二十餘名の年少兒が二個の机を圍んで椅子にかけた。沈黙數秒、僕も靜かに瞑目して心氣を靜めてゐた。やがて楽しい食事が始められる

と、子供たちはいろいろ無邪氣な話を始めるが、一人が話すのを周囲の友達がにこやかにうなづきながら聞いてゐる。『兵隊さんが鐵砲をうつてゐたよ……』といふ言葉の奥に動いてゐる表情と態度とは幼児のみが表現し玩味し得るもの、がたゞよふてゐる。この和やかな情景に心をひかれた僕は興深く子供達の會話を聞き取らうとしたが、すぐ近くに居る子供の外は殆ど聞き取れない程の靜かな話振りである。しかし叱られるのを恐れての小聲では決してなく、丁度その子の今の心もちに最もふさはしい調子である事が、そのやわらかな表情で明に感ぜられる。『他の人が話してゐる間は待つてゐて、順々に話して行くのですよ』との訓言を用ゐずして、しかも用ふる以上の境地が開かれてゐる。

我が皇國日本は昔より神ながらことあげせぬ國であつて、言葉を用ひずして彌榮の大道をまごころを以て顯現して行くを理想としてゐる。故に、たとひ言葉を用ふる時にも末葉に拘泥せず其根幹の精神の發揚に努むべきものである。僕はかゝる理想が今この『幼兒の天國』に如實に顯現

してゐるのを感じて畏敬と共になつかしき念に耐えなかつた。あゝ我等は常に幼兒をして斯かる天國に安住せしめたいものである。

(皇紀二千五百九十二年九月三十日 日本國民 大塚喜一謹記)

前 號 訂 正

頁	段	行	誤	正
五二	上	七	理解するといふ事はない	理解するといふ事は出來ても融化するといふ事はない。
五二	下	一〇	欲永	欲求
五四	下	一六	なき	き
五五	下	一三—一四	「同時に……ない」の「」	「トル
五六	下	一六	『吾等の雜誌』 『幼兒の教育』	『吾等の雜誌』 『幼兒の教育』
		一九	項	稿
				二三

低學年の生活全體教育法

東京女子高等師範
學校 附屬小學校

低學年教育研究會

二四

目 次

- 一、生活全體教育法の組織
 1. 生活全體教育法の特徴
 2. 作業生活指導の根柢
 3. 遊戯生活指導の根柢
- 二、作業生活指導の實際
 1. 尋一「お月見」作業の指導
 2. 「時の展覽會」作業の指導
- 三、遊戯生活指導の實際
 1. お手紙ごつこの指導
 2. お客遊びの指導

は し が き

『幼兒の教育』が小學校の教育に關心を持たれ、特に今回、我が校の低學年教育法を世の幼稚園に紹介なさるお考へで、貴重な本誌の多數の頁を我らに御與へ下さいました。小學教育と幼兒の保育との聯絡と理解とのために、誠に結構な御企圖であり、感謝に堪えませぬ。

本誌前號には『幼兒保育と小學教育』の題下に、拙なき私の意見と、我が校低學年教育のホンのアウトラインだけを申述べておいた次第でしたが、今回は我々自信を以つて率先研究して實施してゐる低學年教育の實際について、なるべく解り易く申上げて見たいと存じます。

一、生活全體教育法の組織

淺 黃 俊 次 郎

1. 生活全體教育法の特徴

(1) 生活全體教育とは何か 今までの教育では、修身とか算術とか國語とかと、離れ々々の教科を離れ々々に教へ授けてゐたし、而もそれらは修身なら修身書を教へ、國語なら讀本を教へ、算術では算術書を教へて居たゞけで、具體的な(特殊的な)生活をする人(子供)の教育といふことを忘れて、たゞ所定の材料を教へ込めばそれでよいと考へて居たのである、丁度それは抽象された一本の『木』といふものを考へて、梅の、櫻の、桃の、からたちの、山吹の、花をくつつけて、そしてこゝによりよい『木』を作り育てやうと夢想したやうなものである。だからこれ迄の教育は謂はゞ造花的教育だつたのである。

これが少しく言ひ過ぎた譬であるならば、また次のやうにも言へるであらう。即ちこれ迄の教育は一つの機械を作る分式式のもので、部分品を組合せさせれば一個の動く時計が出来ると考へてゐたものである。即ち人及び人格を機械と見た教育法であつた。従つて部分品製作の教育は、ひたすらに幾つかの離れ々々の教科をたゞき込んで教育してゐたのである。

所が人及び人格は造花ではない。一個の機械であつては堪らない。幼兒、兒童と雖も具體的な生活をなす個人であり人格である。櫻に桃の花を咲かすわけには行かない。櫻は櫻としての特種性を發揮してこそ、櫻の存在價値がある。萬物は

各々其の本質を發揮すべき運命を持つてゐる。自己發展の法則によつて生きて行く、伸びて行く。これ迄の教育は接木式であり、接芽式であり、竹に花を結びつけるやうな教育法であつたのである。

生活全體教育法は、各々が各々の美を發揮して咲き匂ふやうに育てると共に、各々が伸び育つ生活の根元であるところの生活力と生活様式そのものを對象として營む教育法である。従つて、子供には子供の生き方があるから、その生活を指導する。何が子供であるか！といふことを見極め、接木式教授や接芽式は訓練を排除して、出来るだけ生活の自然な伸展に合致する教育をするのである。所で生きて行くに直接必要な知識や技能といふものは、生きる活動——即ち生活することによつてのみ眞に會得して行くのである。

兒童は入學までに實に多くの知能を獲得してゐるが、幼稚園や家庭に於ける幼兒の生活には、読み方教授とか算術教授とかといふものは無かつたのである。幼兒が自然な家庭法で一步々と發達して來たのである。だからこそ生きて行くに必要な至極實際的な知能を得てゐるのである。生活の自然に合致する自然的な發達の仕方といふものを、尋常一、二年の兒童教育に適用する必要があるのである。されば低學年兒童の特殊性から見てもさうでなければならぬと我々は考へるのである。だからあくまで兒童の生活を指導すればよい。切れぐくではいけない、生活を全面的に指導しなければならぬ生活上數を數へ又は計算する必要があるればそこで算術が行はれ、文章の読み書きが必要ならばそこで國語指導が行はれ、ばよい。さうであつてこそ、本當の生きた教育になり役に立つ教育になるのである。かういふ考へから仕組まれたのが、我が校低學年に於ける生活全體的教育法なのである。

(2) **個人の尊重と社會性の陶冶** 他人と共同して生活し活動することの出来る人間たらしめることの必要は、フレ

ーベルが夙にその幼兒教育に高唱したところである。所でこれまでの學校に於ては、兒童が學校に入學するなり直ちに教師對兒童個人といふ關係を執り、教師は兒童個人々々を相手に知識技能を教へ込んである。兒童一人々々はたゞ自分の成

績を上げればよい、自分が先生の御氣に入りにならうとし、學級の他の人を押しつけて功名を博しようとする。自分さへよければよいといふ態度を不知不識の間にとらせて居たのである。舊式の中學教育は今でもさうであるが、それを尋常一年に入るや否や、個人主義の生活態度をとらせてゐたのである。ところが近代の教育は社會性的人格陶冶といことに目覺めて、眞の個人といふものは協同社會的生活の出来る個人でなくてはならぬ、協同社會的生活によつて陶冶された個人こそは眞の意味の個人であるといふことになつたのである。

のみならず、兒童の學ぶべき凡ては、この社會的な生活を以つて學ぶといふことが、その學ぶべき事柄を眞に體得する上からも、又その兒童自體にとつても斷然必要な方法でさへあるとも見られて來たのである。で、我が低學年の生活全體教育法に於ては、兒童の生活の形式をば作業と遊戯とに見、作業に於ても遊戯に於ても協同の出来るやうに、而して協同の活動をなさしめることによつて社會性を陶冶する——従つて眞に個性を伸ばすやうな教育法を仕組んでゐるのである。

(3) 何が生活指導の題材か 然らば全體教育に於ける生活指導の題材はどんなものであるかといふに、修身科、讀み方科、算術科、體操科といふやうな、離れくの教科の材料を教授することではないのである、然らば何であるかといふに一つは『作業』であり、一つは『遊戯』である。學科の課業といふことは、尋常一、二年の兒童にはその精神及び身體の發達から見てもまだ無理である。學科で教授しても身につかないのであると「十一」いふやうな抽象的數式を覺えろといへば兒童はそのまゝ暗記はするが、眞の理解はまだ出来ないものである。出来ないのは精神發達がそれを理解するまてになつてゐない爲である、だから我が校ではさ

$$\begin{array}{r} 158 \\ + \quad 3 \\ \hline 161 \end{array}$$

といふやうな數字による算法も尋常三年からで遅くないのでういふものは尋常三年に入つてから知らせる。ある。

低學年時代は兒童の生活環境内に於ける自然の事物現象、文化的社會的の事物現象から作業題材を採り、兒童の自發活動によつて行はれるところの身心の發達に適合する遊戯を探ることにしてゐるのである。

この作業及び遊戯の指導の實際については後ほど又述べる筈である。

(4) 教科に代る指導課程 修身、國語、算術、體操などの教科の教授を執らないとすれば、どういふ課程で指導するかといふに、直觀、説話、作業、發表、遊戯の五つで指導するのである。合自然の方法によつて生活を全體的に指導するのは、かうした指導課程を執るより外によい方法はないと考へる。

根強い性格を作り、身につく知識技能を體得させ、生活を全面的に伸ばし、心と頭と手を一致させるところの教育法を目指すならば、兒童の生活々動の自然の状態に合致する方法で教育することが何より大切である。幼兒、兒童の活動は凡て事物現象の直觀は發する。直觀によつて得た個性的な印象は、發表に向つて意欲され活動される。その發表は作業、されてのみ實現されるのである。故に直觀に發する、一系列の活動をなさしめるといふことは、始めあり終りあるところの統一ある活動で、さうした活動で生活させるといふことは人格教育上最も重要なものとなるのである。

(5) 低學年の學級と教室 従來の教育では、學級はたゞ教師のもとに集められた個人の集合に過ぎなかつたが、我等の教育では、學級といふものは兒童の共働社會である。ルソーのエミールでは一人の兒童に一人の教師がついて居れば完全な教育が出来ることになつてゐるが、教師對兒童個人といふ關係で教育したのが舊式の個人主義教育法である。學級は兒童の小社會である。五十人なり六十人なりが生活を共にして、お互ひが共働して學級社會をよりよきものに進めて行くものにする。そしてその過程に於ては、知識も技能も、感情も意志も、個人が社會的に影響し合つて、現實性に富んだ役に立つ働きが出来るし、又、さうであつてこそ社會性が養はれるのである。教へられた知識をたゞ覺えて置かなければならぬがために覺えるといふのが従來の學校教育であつた。役にも立たない死知の蓄積を強要されてゐたのであるから、ホントの教育にはなつてゐなかつたのである。

教室は之を兒童の生活場所としなければならぬ。作業をする場所であり遊戯をする場所として適してゐなければなら

ない。教師が教授して兒童がそれを受取るための場所であるといふだけであつてはならない。だから我が校低學年の教室は作業に適するやうに、六人グループの作業臺になつてゐるし、非常に幼稚園に近く家庭生活に近い形の教室になつてゐる。遊戯するに適するやうな設備も大いに工夫してゐるそして學級と教室はいつも活々とした氣分に満ちて活動してゐる。

(6) 授業時間と教師の立場

今までの學校教授では、尋常一年も尋常六年も同じ長さの時間で學習させてゐたのであるが、あれは誠に不當なのである。而も又、一つの學習なり作業なりが殆んどいつでも中途半端でやめさせられ、別な學習なり作業なりが、又始めさせられて、いつも／＼始めあり終りある目的活動がよく達成させられなかつたのである。そのために兒童は努力遂行の習慣が養はれず、不注意な人間にされ、不經濟な知能の働きをさせられ、おまけに自發活動性が踏みこじられてゐたのである。これは誠に不當だつたのである。

合自然の方法により、作業及び遊戯に依る我が生活全體教育法に於ては、兒童の學校生活の時間的區分は兒童の活動狀態を考慮して其のリズムに適合せしめるのである。時間の劃一的な區分に兒童の生活を當てはめて行くのではなく、兒童の生活に時間を盛つて行く方法をとつてゐるのである。

故に兒童の學校生活は、始業に始り終業に終るわけで、學校に居る間は凡て生活の時なのである。だから低學年指導の教師は、始業より終業に至るまで絶えず兒童と共に生活し、且つ共働することになつてゐる。四十分や四十五分づつ三時限さへ教授すればそれでよいといふわけのものではないのである。

(7) 國定の教材に對する指導態度

算術のことについては前にも一寸申したが、尋一、二教師用の算術書の教材の如きは尋常三年の一學期で有且つ容易に會得させ得る。低學年時代にあんな抽象數の算術及び算法を行ふべきではない。生活の事實に數を直觀させて具體な數觀念の養成を圖つておくといふことこそが、低學年算術教育として最も大切なのである。それは兒童の心意の發達と働きに對して合自然的であるばかりでなく、實に力の算術教育の重要な基礎を作るも

のとなるのである。

修身は生活の事實に關聯した道德的判斷及び實踐を指導してこそ、生活上役に立つ生きた修身作業となり得るのである。協同社會性の學級團體に個人兒童が生活することによつて、特に生きた修身の實踐が促進される。修身書の例話の如きは、その例話と同じ生活事實を持つならばよいが、殆んど持つてゐない。『例話は譬へごとであるから、その精神をくみ取つて自己の立場を反省し、適當に方法を考へて實行せよ』といふわけであらうが、それがまだよく出来ない精神發達にあるのが低學年の兒童である。

兒童が協同社會的生活をするといふことは、共働に於ても遊戯に於ても、最も直接的具體的な道德の實踐がどうしても必要となるのである。我らの教育法が生きた修身作業の實現にも適切である所以がそこにあるのである。生活のある所に修身實踐の必要のないことはない。だから、言はゞ何時如何なる場合でも修身實踐が指導され實行されるわけになるのである。

國語教育から我が生活全體教育法を見るならば、この教育法こそはよき言語陶冶を可能にするものである。國語教育といふものゝ本幹は言葉の陶冶でなければならぬ。紙に書かれた文字や文章を讀解するところの讀み方といふものを本體とすべきではないのである。これまでの國語教育はこの點に於てまるで逆であつた。

生活教育では兒童をして生活させるのであるから、生活するといふ事實に於ては社會的な精神交通の必須なる要具たる言葉を使はなければならない。その言葉の如何がよりよき生活の達成の上に非常に重要となるのである。直觀に於て作業に於て、遊戯に於て發表に於て、兒童は他の個人と言葉を交し、共同グループに發言し、教師とよく言語交通を行ふことになるわけで、言葉は生活上に役に立ち而も必須なるものとして、實踐的に修練されるのである。

文字及び文章も、生活上の必須なものとして讀まれたり書かれたりする。何も讀み方、書き方、綴り方の科目を特設し

たり、劃一的に時間を特設したりする必要はないのである。言語がよく使はれ、文字がよく読み書きされ、文章を綴り又讀むことが生活上必須なものとなるやうに、我々は生活を指導する教育法を講ずればよいのである。故に私の實驗によれば、文字の如きは兒童によつて印象され知得されるものが違ふし、どんな文字から覺えられるか、どんな文字順で覺えられるかといふことも違ふのである。況して文字は國語讀本に提出された順序と種類と數とによつて、知得せしむべきである、などと考へるのは實に迂濶なことで、それでは教へても直ぐに忘れられる文字教授となるのである。

國語讀本を一頁づつ順に教授して行くといふことはしないが、生活として讀本を讀み使ふといふことは實によく行ひ得るのである。直觀と結びつけて文が讀まれ、遊戯と作業に結びつけて讀まれ、物語の如きは演出としての構成作業のためによく讀まれるのである。

手工、圖畫の如きは、生活の發表形式として必ず作業中には行はれる。手工のために手工をするのでは手工が生活と離れてしまふ。作業し遊戯する生活上の必要から考案し、構想し、構成するといふことになれば、描き作ることが生活に役に立つ。即ち生活のため手工、圖畫となるのであつて、技術はその作業の活動過程に於て指導され修練されてこそ、ものになるのである。

唱歌や體操も同様である。歌ひたいのは兒童の生活として要求でさへある。遊戯として歌はれ、發表として歌はれ、慰安、休息、享樂のために歌はれるのでなければ、歌ふことの本質に反することになる。生活上歌つて楽しみ、發表のために歌ふ、といふことが、一週二三回の唱歌の時間だけに限られてはたまらないのである。

『兵隊ごっこ』ではよく行進や氣をつけの姿勢、體操や整列などを自然の姿で兒童は遊戯する。低學年時代の兒童の健康と成長とを適正に促進させるものは實にその遊戯活動である。

(8) 生活全體教育と教科課程 然らば低學年の生活全體教育を基礎とする當校の教科は如何に發展するか、といふ

ことに疑問を持たれるかも知れない。念のために左の表を以つてその疑問に答へておきたいと思ふ。(例として當校の第三部のものを取る)

(心中土郷) 育教體全活生 (遊) (業) (作)										低 學 年	
	手	體	唱	圖	郷		算	國	修	作	三
	左	操	歌	畫	土		術	語	身	業	年
裁	同	同	同	同	理	郷	同	同	同	同	四
縫					科	土					年
同	同	同	同	同	同	國	同	同	同	同	五、
						地					六
						史					年

科教、てせさ合適に達發の力能と意心及び活生の童兒
 るみてし行實はで校が我がにうやく行てし定設を間時や
 するあでのふ思とるあで育教の當本がれそ、が

(9) 全體教育法に於ける成績査定 教科目を特に

設けることをせず、而も固定した知識技能を順々に教授して行くといふことをしないものとすれば、兒童の成績査定をどうするか？ これは重要な問題である。そこで我が校の低學年に於ては、生活の全體教育法の立場から次のやうな成績査定表を創案實施して、家庭にもそのまゝ通知してゐるのである。(第三三頁成績査定表参照)

2. 作業生活指導の根柢

(1) 作業指導の原則 生活を指導する教育法といふか

らには、教師側の目的でだけ選定した知識と技能を教授して、それを受身に兒童に學習させるといふだけのもので、日々兒童を教科と時間と机とに縛りつけて置くことを撤廢しなければならぬ。そして兒童をしてその力に應じた作業を行はしめることによつて、その人格を陶冶して行くやうな指導法に改めなければならないのである。

しからばその作業とは何であるか、作業指導の原則ともいふべきものは如何なるものであるか、この點について述べて

見よう。

(一) 作業はその要素として目的活動といふことを重要とする。低學年の兒童だからといって、何から何まで教師の命令だけによつて行動をさせるのは、教育原理としての自發活動性を否認したもので、それで育てられては獨立をした

一人には成り兼ねるのである。獨立した個人たらしめるが爲には、兒童の自發性を認めて、低學年よりなるべく目的樹立の機會を與へ、以つて兒童の目的性を助長しなければならない。自己の行動乃至活動の目的を意識して生活するといふ、さういふ生活態度を養ふことが何より重要なのである。

目的活動はまた活動の終極まで完行されなければならない。即ち『始あり

終りある』ところの目的遂行の活動をする生活習慣を養ふといふことは、低學年期から常に而も強く留意されなければならない。それには從來のやうな押しつけ的教授法は撤廢されなければならないのである。

(二) 生活指導の教育では兒童が『自らの生活のために自らの生活を營む權利を持つてゐる』といふことを大いに認める

主 要 要 素	年 級		第一 學 年			第二 學 年																
	第一學期	第二學期	第三學期	學 年	第一學期	第二學期	第三學期	學 年														
校 長 吉 堀 七 郎 甫 蔵	知 識	法	算	科																		
		理	算	科																		
		文	算	科																		
	技 術	算	算	科																		
		算	算	科																		
		算	算	科																		
	社 会	算	算	科																		
		算	算	科																		
		算	算	科																		
		算	算	科																		
		算	算	科																		
		算	算	科																		
道 徳	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
體 育	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
英 語	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
美 術	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
音 楽	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
他 科	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
計 画	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
備 考	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			
	算	算	科																			

ものであるが、同時に社會生活の建設といふことをも目指してゐるのである。故に作業は個人の獨立性の爲には個人作業といふ形で行はせる。しかし又社會性の陶冶のためには共同作業が重要である。共通の興味を持つ者、共通の目的を持つ者が相互に提携して、その共通目的共通興味の爲に他人と共働するといふ傾向を刺戟し、之を助長することは低學年の時から既に必要である。

故に我が校の低學年教室は六人共同の作業机にして、個人及び共同の作業に適するやうな設備を講じてあるのである。

(三) 作業をして一層兒童自發的的活動とならしめるものは、作業の結果——即ち兒童の自發的考案、工夫、努力、逐行、共働の結果として形成され若くは生産されたこと及び物に對する喜悅の情である。自分の力で形成し生産した満足と喜び、自分たちで成形し生産した満足と喜びといふものを體驗することによつて、一層活動性が助長され、相互に個人が協力して活動する社會性を高め、而も各人が各々の力を發揮して協同社會のために奉仕するの喜びと意志とを涵養することになるのである。たかゞ一年生の子供だからといつて一様に無能視するのは、新時代の教育の名に於て我らの採らざる所である。

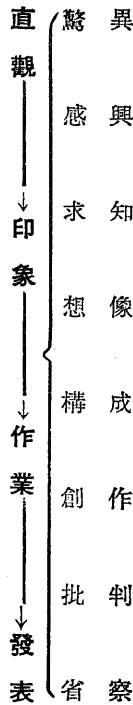
(2) 作業指導の過程 兒童は自己の生活圏内(環境)の事物現象を直觀する。この直觀は概念の基礎として重要なばかりでなく、直觀は郷土と結合してゐるものである故に、その内容に於て郷土的愛郷的精神を涵養するところのものとなる。ところが兒童は直觀によく動かされる。そして生活々動がその直觀を發端とし動因として發動する。兒童が直觀に動かされるのはその理智的要素よりも寧ろ情意的刺戟に感動するからに外ならない。こゝに直觀が人格教育上重大なる新使命を持つことになるのであるが、それはとに角として、直觀は全體として兒童を刺戟し、兒童をして新なる仕事を出發させる動機となるのである。

直觀の刺戟は印象を兒童に與へるが、この際直觀事象が兒童の興味に投じ得たもの程その印象が強いわけである。又兒

童の個性に應じてその直観から受ける興味と驚異とが違つて来る。この直観と兒童の個性型とが、直観を動因として出發する生活々動の價値を左右することになるのである。

ところで兒童性は活動性そのものとも云つてよい程である、生活環境内の事象を直観して得た印象は、單に印象として淡く消えることなく、何等かの表現様式を以つて外部的に發表されないのである。この直観から發表までに至つて始めて一つの事象が個性化されて體驗され、以つて認識されるのである。

その直観から發表への過程に於ては、個性的に情意を働かして驚異、感興、求知、想像、批判、構成、創作、省察などの全精神活動及び身體的活動が行はれ、個性的色彩の濃厚な作業が行はれるのである。かくて作業は發表の過程であり、發表され表現されて始めて事物現象が個性的に創造的に理會されることになるのである。



合自然の方法により、直観に發する一系の活動を輔導して、以つて生活の總合的全體教育を行ふといふのは、大體この意味のことをいふのである。

③ 作業題材の選定 作業題材はなるべく兒童の個人若くは共同の選擇と決定とによらしむべきであるが、我が校に於ては既に學級共同作業の題材を大體選定してゐる。その一覽表だけを示せば次の如くである。

作業題目配當一覽表

月	年	尋常科 第一學年	尋常科 第二學年
月 十	年 四	<ul style="list-style-type: none"> ○私たちの學校 ○お茶の水 ○二重橋 	<ul style="list-style-type: none"> ○上野公園 ○植物園 ▼おたまじやくし(飼育)
月 九	年 五	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休の展覽會 ○お月見 ○鳴く虫 	<ul style="list-style-type: none"> ○學校のお庭 ○神田明神 ○天長節 ▼おたまじやくし(飼育)
月 七	年 六	<ul style="list-style-type: none"> ○七夕祭 ○夏の虫 ○夏休み 	<ul style="list-style-type: none"> ○學校のお池 ○上野公園 ▼そらまめ(栽培)
月 六	年 七	<ul style="list-style-type: none"> ○カレンダ ○たべもの ○私のもの 	<ul style="list-style-type: none"> ○梅雨 ○私の家 ▼金魚(飼育)
月 五	年 八	<ul style="list-style-type: none"> ○お節句 ○遠足 ○私の中から 	<ul style="list-style-type: none"> ○湯島天神 ○お手紙 ▼朝顔(栽培)
月 四	年 九	<ul style="list-style-type: none"> ○お節句 ○遠足 ○私の中から 	<ul style="list-style-type: none"> ○空を飛ぶ虫 ○靖國神社
月 三	年 十	<ul style="list-style-type: none"> ○お節句 ○遠足 ○私の中から 	<ul style="list-style-type: none"> ○七夕祭 ○月島 ○夕立 ○お盆 ○夏休み ▼朝顔(栽培)
月 二	年 十一	<ul style="list-style-type: none"> ○お節句 ○遠足 ○私の中から 	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休の展覽會 ○お月見 ○褒める時、起る時 ○二百十日 ○靖國神社、遊就館
月 一	年 十二	<ul style="list-style-type: none"> ○お節句 ○遠足 ○私の中から 	<ul style="list-style-type: none"> ○秋の草花 ○お祭 ○運動會 ▼コスモス(收穫)
月 十	年 一	<ul style="list-style-type: none"> ○お節句 ○遠足 ○私の中から 	<ul style="list-style-type: none"> ○秋の草花 ○お祭 ○運動會 ▼コスモス(收穫)

月 三	月 二	月 一	月二十	月一十
<ul style="list-style-type: none"> ○豆まき ○水 ○福壽草(栽培) ○雛祭り ○おもちゃ ▼姉妹(飼育) 	<ul style="list-style-type: none"> ○地久節 ○一年間のこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○お正月 ○霜と雪 ▼鳩(飼育) 	<ul style="list-style-type: none"> ○お正月 ○こよみ ○温室 ○お正月 ○霜と雪 ▼鳩(飼育) 	<ul style="list-style-type: none"> ○明治節 ○實買ごっこ ○風と風車 ○道を通るもの ▼兎(飼育) ○電 車 ○クリスマス ▼白 鼠(飼育) ○お客遊び ○お正月 ○こよみ ○温室 ○お正月 ○霜と雪 ▼鳩(飼育)
<ul style="list-style-type: none"> ○雛祭り ○私たちの學校 ○一年間のこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○節 分 ○水 ○雛祭り ○私たちの學校 ○一年間のこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○お正月 ○こよみ ○温室 ○お正月 ○霜と雪 ▼鳩(飼育) 	<ul style="list-style-type: none"> ○山手線巡り ○芝公園増上寺 ○年の暮 ○草木の冬ごもり ○クリスマス ▼白 鼠(飼育) ○親類、近所 ○霜と雪 ▼鳩(飼育) 	<ul style="list-style-type: none"> ○明治節 ○私の家 ○私たちの着物 ○上野動物園 ○紅葉と落葉 ▼兎、モルモット(飼育)

3. 遊戯生活指導の根柢

(1) 兒童の遊戯の本質

低學年時代の兒童はまだ遊戯しないでは成長しないものである。その生活の大部分は遊戯である而我らを見る。作業は目的活動であると言つたが、時に遊戯らしくない活動や仕事に従事して居るかを見るに、直に之を遊戯化してしまふ。而も眞剣に遊戯化して仕事をする。庭掃除の仕事に従事してゐるうち、塵取を持つた兒童は誠

に愉快さうに「わからずやにつける樂はないか——」といつてどん／＼掃きためを取り歩く。(藤村かるたの文句)

作業と遊戯は目的の置きどころに差別をつけて言ふのであるが、目的に向つて熱中する態度の眞剣味からいへば、遊戯も作業も共に區別すべき何物も持たぬといつて差支ないのである、まさに低學年兒童はさうした活動をする。故に作業指導から見ても、この眞剣な遊戯を價値高く認めて指導といふことは、重要である。

兒童が學校に入つたからといつて、我々はその自發的に活動する遊戯を少しも封鎖しようとは思はない。否、大いに自發活動を尊重して、身心の發達に適合せしめるやうに遊戯を認めて指導するのである。心身鈍い兒童、身體の虚弱な兒童には、先づ何よりも遊戯を指導し獎勵して救ふことにしてゐる。自發活動性の助長のためには遊戯に如くものはないのである。而してその遊戯は能ふべく自發自由が許された遊戯でなければならぬ。

合自然の教育法のためには、遊戯から作業への指導が講ぜられなければならない。兒童の遊戯は不眞面なものではない眞剣なものである。故に作業は眞面目なもの遊戯は不眞面なものと觀てはいけない。遊戯も作業も目的のために兒童は眞剣に行ふ。故に作業と遊戯との區別は活動の自由といふことにある。作業は活動それ自身は快感を與へないが、遊戯は活動それ自身快愉であつてその外に目的はない。その快愉——即ち情意的性質の如何は、活動の自由如何に存すると見なければならぬ。遊戯には自由が與へられて、活動それ自體に目的が存するけれども、作業は目的が別にあつてその爲に活動する所のもので、自由な活動よりも活動の結果——形成、生産に満足するものである。砂場で跳びはねる自由な遊戯が教師の暗示や輔導によつて巾飛びの測定作業となり、その長さの比較、計算といふ算術作業と發展するが如きは、遊戯から作業への指導といふことになるのである。

(2) 遊戯の題材 遊戯はその本質上、自由な活動による快愉を伴ふものでなければならぬから、體操科の遊戯の如き遊戯のみを以つて押しつけてはならない。自發活動を尊重して心身の發達に適合する自由なる遊戯を行はしめなければな

らない。故に如何なる遊戯が行はれたかといふことは言へるが、如何なる遊戯を行はしむべきかといふ遊戯題目を選定することは、とかく妥當を缺くやうになる。しかし遊戯の研究は常に而も大いに必要である。故に我が校では遊戯題材を選定してはない。

物に即し、場所に即し、場合に即して兒童が自發的創作的に遊戯することを大いに奨励してゐるのである。故に教師は遊戯を教へるのではなく遊んで見せる。兒童の遊びに入つて共に遊ぶ。兒童と共に遊戯を考案し、工夫し活動するのである。そして教室には遊戯するに適する設備を出来るだけしておくのである。家庭でする遊戯は學校でもする。郷土に行はれる傳統的な遊戯も學校に取り入れる。故に日々の學校生活は遊戯と作業が大體半々になつてゐるのである。

併し乍ら『お手紙ごっこ』とか『お客遊び』などは、遊戯の題材としても作業の題材としても價値のあるもので、それらは遊びが作業化されるものとして當校では作業題材に選定してゐるのである。

尋一「お月見」作業の指導

徳 田 進

何故「お月見」を作業題材とするか

(一) 尋一兒童精神作業の特色から

「お月見」本當に香氣の高い題材だ。仲秋十五夜のお月見

は大人にとつても遊神の境地であるが彼等兒童にとつてはそれ以上に魅力ある世界なのだ。

尋一兒童はロマンチストである。お月様を神祕化し、擬人化して、呼びかけ話しかけ歌ひかける。親しみをもちこ

そすれ、自分と月との間に差別をつけない。實際主客未分の状態にある。お月様を仰ぐと、童話の詩趣がひしひしと彼等の胸中を占領する。

かういふ真底からの興味や、月に働きかけようとする精神活動を催させる「お月見」を題材としてこそ、無理のない然かも教育効果の多い指導が出来るのである。

(二) 行事の教育的價值から

現代の機械的スピード的な物質文明は、児童を小利口な理窟家にこそすれ、高雅なおちつきある子供には、してくれない。児童としての鷹揚な心の故郷があるべきだ。情趣感興の世界が與へらるべきだ。此の點から觀て「お月見」といふ行事は、童心に微笑みかける尋一児童の天上の遊歩場である。

(三) 題材が季節に即す必要から

尋一児童に指導する事項は、季節々に相應したものである事が望ましい。それは、見させ、聞かせ、試みさせる爲に材料が得易いばかりでなく、児童は季節にあつた生活を、日常不知不識の間に營んで居るのだから、實生活と連

絡をとつて、季節に即した日常生活を統整指導してやる事が大切なのである。

秋は月が美しい、特別に麗しい、そして十五夜といふのは、九月に限つて、彼等が家庭で經驗する事なのである。

この經驗を活用して學習させる事は、児童生活の特相を觀破した賢明なやり方だ。

(四) 教材の發展關係から

前記の通り、九月には、九月の題材がある。他の一例で言ふならば、秋の虫の如く。

所で、秋の虫を觀察させ、經驗を發表させ、其の泣き聲を調べさせて行くと、きつと秋の夜の話が出、お月様が話題にのぼつて来る。

一 題材秋の虫が他の題材お月様を其の中に包藏してゐる時、之を捉へて作業資料とする事は、その學習内容を益々前後脈絡を保つて發展させ、従つて精神筋肉兩作業を一層圓滑に發揮させてやる事になる。

それで、「お月見」といふ題材が、是非作業されねばならなくなつて来る。

(五)教材としての價値が多いから、

「お月見」と言つても、唯お月見の話をするのでは無く、下話の通り、月や星を、計劃的に作りもし、描きもし、月見の事を記述もすると言つた工合で、今迄算術國語圖畫手工といふ名で呼ばれてゐた學習事項は、一切渾然一體となつて、月見遂行の過程に兒童に提供される。分科意識の極めて少い尋一兒童には、この種の遊びの間に、勉學が行れる事が望ましいのである。

お月見作業の實際はどうか

今、實際を(一)經驗發表(二)作業事項の決定(三)着手と其の指導の項目の許に述べて見るが、勿論此の全過程を仕上げるのには、大略三日間の日時を要するのであつて、一日で成るものではない。

(一)經驗發表

教師「秋の虫の所で、近頃お月様のよく照つてゐる庭でこほろぎやくつん虫が、澤山鳴いたと言ふお話が出来ましたね。今日は九月十二日、お月様は一層まんまるになつて來

ました。之であと二日経つて九月十五日の晩になると、本當のまん丸」妓迄話して來ると、「先生十五夜」の聲が起る。

教「さうです。十五夜と言ひますね。(十五ヤと板書)學校でも十五夜をお迎へしてお月見したいものですね」

(オ月ミと板書)兒童から拍手と歡聲が起る。

兒一「嬉しいな。先生、去年僕お家でやりましたよ」

兒二「私もよ」

兒三「僕は、お母様と梨や栗を買ひに行きました」

各自經驗を想ひ起して、お互に話し合ふのには夢中。

教「大概の方が知つてゐるやうですね。それでは、どの組でも話しつこ、聞きつこませう。順番に右の端の人からよく話しませう。残らず聞きませう」

六組に分れてゐる各組の兒童各自、自分の組の者に、去年の經驗を發表する。忘れた子は聞き手にしておく。教師は、お話下手の兒童の所に行つて、話の緒口を出してやつたり、聞き手になつてやつたりする。

教「皆さん楽しくやつたようですね。お月見やつた方は

手をあげてごらん。(しない家の子が約五分の一ばかりゐる)あゝ、しなかつたお家もありますね。宜しい、それでは今年も、其の分丈、學校で皆さんと一緒に致しませう。所で、此の人達にも、先生にも、皆さんのしたお月見の話をお聞かせてくれるといふのだが」

先生々と擧手大勢。

教「關根君」と、指名。引續き、二三名。話者聽者にお話作業聽方作業の注意を時々與へる。

又、話の要點は板書(アカルイマルイ月、ツクエノウヘノオダongo、クリ、ナシ、リンゴ、ブドウ、スキ等)

教「面白いお月見でしたね。こんどは、先生がお月見のお話致しませう」

兒童拍手緊張。教師は、お月見の由來、兎の餅つき、その童話、上げるものをわかり易く、所々、板書を加へて説話。

(二) 作業事項の決定

教「學校でもお月見を是非致しませう。どのやうにしたら面白いでせうか。うまい事考へつこしませうよ」

各組毎に話し合つて相談。要點は、ノートに記入させておく。教師は、相談のはかどらぬ組を指導。

教「相談出來ましたか。内村さんの組は、どんな事がきまりましたね」と各組毎に次の點にふれた發表をさせて見らる。ナニヲアゲルカ。ナニヲツクツテカザルカ。

教師は、其の發表内容を批判しつゝ、次の如く決定。

前記經驗者發表に出た上げる物。月と星の作製と級の裝飾教「ではこれから、かういふ物を作つて、お月見しませう。自分は何を作りたいか考へて下さう」

作製物を、兒童の希望と、能力、個性を對照考慮して決定。次の如く組を編成。

月組——三人。月の作製。

星組——四人づつ三組、星の作製。

三寶組——三人づつ二組、一組が一個作製。

かざり組——殘全體、壁間等の裝飾物作製。

教「さあ、どの組も、作る物のオホキサアドノクライニスルカ。ナニヲツカツテツクルカ。(板書)相談しておきなさい」と、各組の相談質問に應じる。相談の結果を記

入發表させ次の注意を與へる。

月組——大コンパスの使用法。月の色は黄の色紙で。

星組——大小種々の星。金色の色紙貼付。

三寶——色紙はうす茶、寸法は模型の三寶の提示で。

月星兩組とも貼り場所は、前面の黑板使用。

(三) 着手と其の指導

各組を絶えず巡視し或は仲間には入つて、仕事の遅い所粗雑、餘りの喧噪、物品の亂雜、製作方法の不明を指示。

出來上つたものは一應批評を下した後貼付させる。

教「いよ〜おだんご作りです。之から、粘土で作りますう」

板、粘土の配布、水、雑布の用意終了後製作指示。

前同様の指導。出來た所はすん〜一つの三寶へ積重ねさせる。人數の關係により十五と數を限定しないで可。

おだんごは、全兒童に作らせる事が、彼等を、お月見したと意識させる爲に大切である。

出來上つた子供達には、梨、栗の粘土細工指導。之は全體に望まなくとも可。他の三寶へ積む。

この後どう處置して行くか

(一) お祝の歌とおどり

一同清掃整頓された教室で、製作品鑑賞。

當日だと、家の許を得て、實際のおだんご、果物、すゝきを持つてる兒童も多いが、許容する。

教「さあ、之でいつお月様や兎さん達が來ても、困りません。皆さん一緒にお月さまを歓迎させよう」

一同拍手喝采。靜まるのを待つて教授しておいた「十五夜お月さん」「出た〜月が」「ポツタン〜やれつけ、それつけ」等の唱歌と遊戯。全體で、時に數組で、時に一人で。

(二) お月見學藝會開催。

前々日から、學藝會を開くことを豫告しておき、實演種目を平素學習してゐる事や、課外の讀み物、見聞事項から選んでおくやうに注意を與へておく。

前日自分のすることを教師へ報告。教師は之に基いてプログラムを作り當日印刷したものを配布する。

之に従つてお祝の歌とおどりに引き續き進行。

(三) 記述

學校のお月見、お家のお月見を、學藝會開催翌日記述させる。之には繪を入れさせるのが一層よい。

(四) 手工

後日、畫用紙の後半の所に月と空を描かせて、折り立たせて、立體的にし、前半を縁側風にかゝせて、玆に紙製の机を立たせる、机には供へ物をかゝせておく。

(五) 數量

「十五夜は、九月一日から幾日目の晩ですか」

時の展覽會作業の指導

永堀千鶴子

「今年の十五夜は何曜日でしたか」

といった問題を、毎日の兒童カレンダーを使用して調査させ、日數の計算、十五夜たる所以を、知識から明かにする。

(六) 直觀

其の後怠らず月の形の變化、明るさの推移に注意させておき、一週間の終り毎に、發表させて見る。

この時教師から三ヶ月、半月、満月の簡単な説話をしつやる。

(1) 作業の動機

六月のカレンダー製作の際に、六月十日は時の記念日と

記入した。そして、時の記念日は、日本で初めて時計の出来た日であると云ふことを説話しておいた。

このよき機會をとらへて、一つの作業題材とすることは

大いに意義のあることである。指導内容をあげてみると時計に關する諸知識、時計の見方、「時刻を守れ」などの道徳方面、自分の日々の生活に於ける時間的關心を持つこと等がある。製作作業に於ける數字指導、文字指導等は勿論の事である。第二學年になれば、更に發展して、時刻と時間の觀念を明らかにし、時間の簡單なる計算等に進めて行くべきである。こゝには大體一年を標準として記すことにする。

(2) 作業の計劃

時の記念日の數日前、先に作つた六月のカレンダーを参照しつゝ、十日が時の記念日なることを想起させる。同時にその由來も説話をくり廻し、記念すべき日なる事を深く感じさせる。それで、私達も何かしませうと云ふ事になり児童と種々相談し、結局教師の豫定してゐた時の展覽會をしようとして云ふ事に決定する。そして出品物の相談に入る。「色々の時計を作つてかざる」これが第一聲である。誰も共鳴する。然し時間などにあまり關心を持つことのない子

供等には、それ以上思ひ付きが出ない。教師としては、外に「時刻を守れ」のポスターを作り、日々の生活に於ける時刻しらべ等を豫定してゐる。それでこれらの相談を順次持ちかける。

「私達ばかりでなく、學校中の皆さんに、ちこくなどしい様にしていただく爲にポスターを作つて、その事を書いてはり出させよう」

「先生、『ちこくをするな』つて書けばいゝんでせう」

「えゝ、そうよ。皆さんはもう決してちこくをしないことね。いつも何時に起きたら、學校に間に合ふの」

「私、六時に起きるわ」私、五時だわ」

「あなた方、そんなに早く起きるのだと、夜はよつぽど早く寝るのでせう」

「私、いつも七時半よ」私は八時だわ」

「それぢや朝起きる時や、寝る時をしらべて、それも書いて見ませう。ごはんを食べる時や、學校に來る時、歸る時おやつ、おべんきよう、色んな事するのは何時だか、みんな書いてみませう。そして、みなさんのとくらべてみる

ときつと面白くことよ」

こうして、出品物の計劃が出来た。次に作業の分擔をきめる。入學後僅か二ヶ月故、共同作業はうまく行かぬ。その指導の一端ともして、ポスター作りはおとなりの人と二人共同にする事にする。時計は希望により決定、やはり共同は二人位がよい。時刻しらべの方はその性質上、個人作業となる。

展覽會が丁度六月十日に開催出来る様に、準備に要する日程を豫定してかゝらねばならぬ。

第一日 作業の計劃、時計の直観

第二日 時計作り

第三日 時計のよみ方 ポスター作り

第四日 時刻しらべ 展覽會準備

第五日 (六月十日) 陳列、閲覽、展覽會開催、後片附

(3) 作業の實際とその指導

一、時計の直観

まづ正確なる直観が必要である。各家庭の時計をよく直

観させる外に教師引率して、近所の時計屋に行くことは大いに有効である。少し大きい時計屋であれば、大抵暇な午前中故、よろこんで色々の時計を出して見せてくれる。鳩時計、歌時計などは最も子供の興味あつたものであつた。

二、時計作り

直観にもとづき、時計の製作にかゝる。色々な種類をあげて、各分擔を決める。柱時計等は二人共同にて、相當大きいものを作らせたい。他は個人作業とする。構造は一年程度であればボール箱を利用して立體的に見せかける。半面的に畫いて、後につつかい棒をするかである。指針、振り等は可動的にする方がよい、原紙にて針の形を作り、中心を綴鋌にてとめればよいのである。兒童は完成しない中からぐるぐるまわして大喜びである。

問題は文字盤を畫く事である、圓はコムパスで畫くとしても、數字は一方に寄つてしまつて、適當な位置に書く事は仲々困難である。そこで圖の如く中心に十字を畫き、その線上に3 6 9 12を書き、その間に1 2 4 5……

を書き入れる。この位の等分は出来る。数字のまだよく

書けない者には数字指導をし

なければならぬ事は、勿論で

ある。

其他、鳩時計、目覚時計、

腕時計等は各自工夫して作り

せるところに面白味がある。

一般に小さく作り勝ちであるから、實物大にする様注意

することが必要である。

三、時計のよみ方

自分の作った時計で、針をまわしながら、一時、二時、

三時と示してゆく。教師は教室用大時計にて、一緒に針

をまわしながら、よみ方を指導する。短かい方の針があ

るところの数字をよむと云ふ事を説明すれば、容易に讀

めるものである。一時半、二時半等も同様。その他、自

分の起床、就寝の時刻等にあはしてみる。

一年は大抵この程度のよみでよい。二年になつたら詳

しく分るまで讀める様に導くべきである。

四、ポスター作り

まづポスターの概念をはつきりさせなければならぬ。

當時子供の目につれてゐるポスターを例にしてポスター

は皆の目につく様に、そして分りやすく書かなければな

らない事を注意する。そして何かのポスターを二三直觀

させることは大いに有効である。

各自製作に當つては、まづ書く内容を考へて、繪など

を工夫して取かゝる。(二人共同作業とす)内容は「ジ

コクヲマモレ」「チコクヲスルナ」「ミチクサヲスルナ」

「ハヤネハヤオキ」等が多い。皆に知らせたいことや、

知つてもらひたい事を皆の目につく様に、そしてわかり

やすく書いたものであることを説明して、したがつて作

る時にも、字の配置等は適宜指導を要する。尙ポスター

の大きさは模造紙四分の一大位が適當であらう。

五、時刻しらべ(私の一日と題す)

前日に一日のお仕事やおあそびの時刻をしらべて書いて

おく事を約束する。その結果を書き表はするのであるが、

繪畫形式を多く取入れて、色々工夫させる。時計を畫き

その傍にその時刻にする事の繪を書き、その説明を書く等は自由に發展して行く。一枚の大きい紙に書くのも面白いし、とちて本の様にするのも面白い。各自の希望にまかせるが、朝から順に書くことを、特に注意し、教師は時刻を時計の針で表はす事を机間巡視の間に個人指導しなければならぬ。構圖等も、時々指導を與へる方がよい。

最後に題のつけ様に困つて相談の結果、「私の一日」と題する事になつた。

六、展覽會準備

準備に關しても、色々相談して、次の如き事項があげられた。

入場券

招待状（お母様と上級生）

「入口」「出口」「時計ノテンラン會」等のはり札、

立札（時計の説明）

夫々分擔を決めて作業にかゝる。入場券は大體の形式を決定して、各自數枚作る。招待状は母親宛に書き封筒を

こしらへて、入場券をそへて家に持つてかへる。

四八

時	六月十日九時ヨリ
テ	ニユウジヨウケン
ラ	一切一年オハヤニテ
會	

等をつくる。

七、當日役割決定、陳列

まづ展覽會の時の役割を決めておかねばならぬ。受付係（入口及び出口）説明係、整理係（會場係の意）等を希望を主として定め、何時交代するかも決めておく。徽章等を作つてつける様にすれば一層気分を出してよい。

次に何處に何をかざるかを大たい豫定して、机を總動員で移動する。そして各自定められた場所に陳列する。

その他立札、はり札等の準備をする。陳列は分類的にさせる様にし、ポスターは美的に適當な場所にはる様に指導する。

八、展覽會閱覽

自分等でかざつた展覧會を、まづ自分等で見るとして参考、反省の資とさせる。閱覽注意として次の如き事項をあげた。

1. 一々ていねいによくみることに。
2. 批評する様な氣持で見ること。
3. 徒に他と見せ合はせぬことに。
4. 靜に大切にみることに。

九、展覧會開催

各自の役割にしたがひ、位置につき、入場者を待つ、休み時間になると、急に殺到して、整理しきれず、聲を枯らしての大ききわぎである。上級男生のいたづらを留めるのには大いに苦心して、泣言さへもらしてゐた。とにかく自分の役を一生懸命にする様に注意してゐる。

さぼつたりする子のない様に。
お互に展覧會を終へてホツと一息。子供等は軽い疲労さへ覚えてゐる。

けれど、そのまゝなげやりにしたくない。とかく後片附は女中に、と云ふ子供等故、一層自分等で片付けさせ

るべきである。手早く元通りにする様、教師は先に立つてこれを指導しなければならぬ。

(4) 作業の結末、發展

翌日は昨日の展覧會の事を色々話し合ひ、出品物に對する批判、反省等をせる。教師もそれに適切なる批評を與へ次回への参考とさせる。

又展覧會の苦心談等お互に話すのも面白い。更に綴方形式で、感想發表をさせる。

それから「こしらへたこのお時計はどうしませうか」と云へば、子供等は、「時計屋さんごつこがしたい」と申出る。教師は勿論大いに賛成して、これを取上げる。時計屋さんごつこをするには、尙お金の製作、正札作り、銀行、お店の準備等の作業を經てお遊びを初める事になる。こうして作業から遊戯へと發展してゆくのである。

お手紙ごつこの指導

金 成 み き 江

(1) 遊びの動機

子供の生活には、仕事と遊びの區別は全くないと云へよう。お繪かきすること、本読みをすること、おまゝごすること、賣屋さんごつこすることなど皆子供にとつて見れば、すべてが彼等の本心から欲求する生活に他ならない。然かもその生活全體が純心な遊戯に終始して居ることは私達の十分に認めることなのである。家庭より學校へ、幼稚園より學校へ、彼等にとつては痛々しいまでに生活上に大きな／＼ギヤツプを感じるであらうし、又事實大きなギヤツプがあるのが普通である。出来るだけ早く一人前の子供に仕上げようとしての制裁(？)要求規範(？)が加はり過ぎはしまいか、彼等自身も學校と云ふものを、環境の影

響によつて遊び以外の一種の固い生活場所と印象づけられてゐる場合が甚だ多いのは驚かすには居られない。……子供等の眞實な楽しい生活場所としての學校こそどんなに朗かな喜ばしい所であるか、私は眞實な生活をさせたいのである。思ふ存分遊ばせたいのである。教へると云ふ意識を先づ取り去つて、ごつこの仲間入りが出来たら、そこに思ひがけない育みと導きの部面を見出すことが出来る。少くとも教育的價值ありと認める遊び……ごつこには心ゆくばかりひたらせてやりたいのである。

こんな意味で『お手紙ごつこ』などは適當な時機を得適當な暗示を動機とを與へるならば、子供の非常に興味を感じる遊びであり、教育的の價值も甚だ多い遊びである。

休暇前後、新年前後の時機、或は假名文字習得の時機な

ど、その時と場合によつて遊びの動機は種々様々なるものがあろう。

(2) 直観と説話

愈々お手紙ごつこをするときまれば、遊びをより興味深く、より圓滑に、より教育的にさせるために遊びに必要な品物の直観及び説話が考へられる。子供にも家庭よりいろいろ蒐集させ、教師も各種準備して直観させるのである。

1. お手紙 はがき、往復はがき、封筒、繪葉書等、御用によつて都合のよいもので出すこと、特に往復はがきの説明は必要。

2. 切手 三錢、二錢、一錢五厘、五厘等の種類と貼付の場合。

3. お手紙の役目は？……大變便利なものであること。

4. どうして向ふへ着くか。

5. 郵便局のこと。

通信、受信のうれしい經驗發表を程よくなさせて、且右の如き項目によつて、適宜實物の直観と説話をなして遊

びの参考とし興味を起させ且目的活動を意識的にさせるのである。

(3) お手紙ごつこの計劃

直観と説話を基礎として兒童各自、或は各グループに於て遊びの計畫を立てるのである。勿論教師も指導を加へ不備の點を補はなければならない。

1. 各用紙、各切手の準備。

2. 買物用のお金の準備……模型貨幣などあればなほよろし。

3. 郵便局、局員、集配人。

4. 手紙を出す人、受ける人。

右のやうに遊びに必要な品々を考へ、遊びのメンバー、役割を考へさせ、各自の希望をたゞすのである。

(4) 準備作業

先づ遊戯に要する物を製作する。

イ、郵便局——窓形のボール紙、局名の看板。

ロ、簡単なポスト——折箱に投入口と集配口とをつけ郵便局の「二」マークをつける。

ハ、葉書型用紙（普通葉書、繪葉書、往復ハガキ）

ニ、便箋、封筒……西洋紙、畫用紙等使用。

ホ、切手、……色紙。

ヘ、消印の用意……クレヨンで書いてもよろし。

ト、集配人のカバン。

チ、お金……うちぬきならなほよろし、一錢、五錢、十

錢、五十錢位、適宜につくる。お金入れなど餘力ある

者はつくつてもよい。

作業の分擔、——製作するものを各自の希望により又適宜

教師の鹽梅によつて、分業的に準備させるのである。そ

の方法、材料の選定等は子供の計畫にもよらせるが、相

當指導を要する。教師として豫め綿密な準備がなければ

ならない。又製作の難易、速度の狀況によつて作業の完

成に差違を生ずる場合には、完成したグループが手傳ひ

補つて準備をなさせることも、大いに大切なことであ

る。

友達の住所しらべ、——漢字も殆んど不十分なのであるから正確な住所を知り、且書くことは困難である。極く簡略なものとしてしらべさせる。謄寫刷にしてやるのもよい。

役割の決定、——郵便局關係の者には誰もかなりたい希望を出す。そんな場合には順番を定めて交替するやう定める。たゞし頭のきく活動的の兒童の方がよろしい。切手葉書を賣る人、お金を受取る人、スタンプをおす人等約五人位、集配人は二、三名おくのがよろしい。其他便箋封筒、繪葉書を賣る賣店が必要で、お店番の人三名ほどを決める。

(5) 遊 戲 の 實 際

(一) 葉書、切手類の買入、——封書や葉書により金高を違はぬやう賣手も買手も十分注意させることが大切である。兒童の中には或は金錢を使用したことのない者もあらう。誠にあつさりとしたもので見てゐると、お釣はいりませんとかおまけしますとか、又いゝ加減な勘定をして平氣

です。買物帳を用意してつけさせるとこの
まちがひもよくわかるし、指導も容易である。

(二) 手紙文、宛名、自分の名を書く——これは殆んど知らない子供が多い。大きく板書で書方を示し、或は實物、手本を用意して形式及び内容共に十分指導してやらなければならぬ。個人的にも注意が必要である。手紙を受取れば無論返事をかくのである。

(三) 局員、集配人の活動——賣ること、スタンプをおすこと、手紙を集配すること等めまぐるしく活動をする。興味あることは賣子になつた者、集配人になつた者などが自然の間に今までの自分の見聞によつて、その人になりきることである。『○○さん郵便!』など、切手を賣つて『毎度ありがたうございます』などの言葉が口をついで連發されることである。

かうした仕組みで遊びがつけられるとその興味はいつまでも盡きない。材料が足りなくなつて大急ぎにつくる、又役割を交替すると云つた風で、この間教師も手紙のやりとりの仲間入りをするのがよろしい。遊戯の計畫よりあそ

びまで相當の日時を要するであらうが、教育的に見て隨分價値多き遊びであると思ふ。

(6) 遊びの整理

遊びはいつまでも盡きないが、適當な時にきりをつけて整理が必要である。通信文面、形式等の出來榮えのよいものは、本人或は教師が級全體に發表するなり、又揭示するなりすれば、全體の參考ともなり或は遊びのよい刺激となるわけである。其他買物帳と殘金とをしらべること、郵便局、賣店の整理をすること、お金を各自に分配しなほすことなども必要である。

又遊びの全般にわたつての反省をなさしめることもよいことである。

(7) 遊びの教育的價値

(一) 常識的陶冶——物の値段簡單な郵便事務關係の常識は直観、説話、遊戯の中に理解することが出來たと思ふし又手紙、葉書の認め方なども大體會得し得た事柄である。

(二) 國語的陶冶——通信の認め方は勿論常識的の陶冶でもあるが、内容方面から見れば自分の意志を他に傳へると云ふ意識より綴られたもので、立派な綴方の習練の機會であつた。自分の意志が對者に十分傳へられず、つまり通信の目的が達せられなければ、すぐにその影響があらはれて來る。極めてそれが如實なだけ、差出人の兒童も受取人の兒童も自分で反省の機會を十分に持つことが出来るのである。殊にほんの假名文字のみを習得した時の遊びとしては、兒童も文字を盛に使用したい時であり、且指導の立場よりも習練の機會を與へたき時であり、甚だ有効な陶冶價値があると思はれる。又遊びの中には絶えず言葉を使用することである、使用して見て初めて言葉は語彙、言語内容が豊富になり、自由な發表をなすことが出来るのである。國語的陶冶としてはこの文字ではなく、文章ではなく、生きた言葉としての陶冶が大切な指導部面であることを忘れてはならぬ。

(三) 數量的陶冶——物を賣買する事實を十分吟味して見ると興味ある幾多の陶冶の部面がある。先づ第一にお金の

價値を知ることである。五錢の白銅は一錢五枚の價値があるもの、十錢は一錢十枚、五錢二枚に等しきものと云ふことや、三錢持つて行けば葉書二枚を買へると云ふことを知るのである。又三と云ふ數と三枚、六枚と云ふ量との關係をも知る機會が甚だ多い、抽象的な數と具體的な量とが極めて自然に關係づけられるのである。又葉書四枚買ふのは幾らお金を拂へばよいか、六錢の買物には十錢出せば釣は幾らか、事實算が常に行はれるわけである。

(四) 訓練的陶冶——準備作業に當つては級全體が分業であつて有機的の活動である。大きな仕事の一部面に各自が參加し、その各自の仕事が全體に影響をもたらすことなどは、社會生活の縮圖とも云へよう。又仕事の巧拙遲速によつて援け合ふことなど、遊戲にあつても十分協調を必要とすることなど、其他訓練的の陶冶部面は有形無形に極めて多いのである。

お客遊びの指導

瀬野尾秀義

(1) 取材の方針

子供には子供の生活があり、子供の世界がある。學校入學前より常に喜んで行はれるものは「まゝごと」「汽車ごっこ」「兵隊ごっこ」……等の遊びであつて、これらの遊びこそ幼児の生活全體であり、遊びを他にしては何物もないのである。

かくして生れてより遊びによつて生長して來、又入學當初の低學年では遊びに興味を持ち、之によつて伸びて行くのである。尋常小學國語讀本卷二にも「オキヤクアソビ」の文が出てゐます。文を讀ませるよりも先第一に實際にその遊びを實演し、體驗させることが何より大切なことであり又そうしてこそ子供の生活に即した生活をさせる事が出來、子供に喜びを感じしめることが出来るのである。

(2) 動機の喚起

昨日の日曜日には先生は祖母さんの處へ遊びに行きました。丁度皆さん位の正雄さんがゐますので、鉛筆とクレヨンのおみやげを持つて行つてあげましたら、大喜びで家の中をとびまはつてゐました。

皆さんもおばさんの家へ遊びに行つたこともありませう。又お家へお客様のならつしやつたこともあるでせう。今日は皆さんと一所にお客様遊びをいたしませうと言へば、あうれしいくと胸に手をあて、大喜びする。

(3) 遊びの計畫と指導

(一) 家族のグループ編制……五六人づつ一組になつて、一つの家を作りませう。一組になる人達は手をつないでこ

らんなさい。(この時餘り組む相手を好き嫌を言つたり、人をのけものにしたりする様なことがあつてはならぬ、共同生活、社會生活をするには、共同精神が必要であること、を體得させねばならぬ) 一郎君はお父さんになりますか、公子さんはお母さんになりなされるの、

洋子さんは……あゝ姉さんですか、そして季子さんが妹さんに……先生私は女中さんになります……先生玄關に名前を書いてよくわかる様に致しませう。中々よい思ひ付きです、ね、門札を作りませう。(一グループの表を示せば)

一	郎	……	……	オ	父	サ	ン
公	子	……	……	オ	母	サ	ン
不	二	雄	……	ニ	イ	サ	ン
洋	子	……	……	ネ	エ	サ	ン
日	出	夫	……	オ	ト	ウ	ト
季	子	……	……	女	中	サ	ン

各グループ共に右の様な表を作り、よくわかる様にす。これは招待状を出す時にも都合がよい。児童より發言

されない時には暗示を與へて、相談的に教師の方から問題を出すのがよい。

(二) 共同製作……役割が決定すれば、お客を招待するための準備にうつる。必要な品物を製作する相談をさせる。

お客様をおよびするにはどうしたらよろしいでせう。先づ御馳走は何にいたしませう。一郎さんのお家では何にしようと思ひますか。

御馳走の他にまだ作るものがありませう。作るものの名を書いて誰が何を作るかを決めてから、お仕事に取りかかりなさい。

	ツクルモノ		ツクルヒト
1.	オチャトユノミ	……	女 中 サ ン
2.	オクワシ	……	ネ エ サ ン
3.	カシキ、ボン	……	オ ト ウ サ ン
4.	クダモノ	……	オ ト ウ ト
5.	オミヤガ	……	ニ イ サ ン

一つの作業を行ふにも計畫を立て一組がよく相談し連絡し、完全に遂行する爲に計畫表を作つて實行にうつる様にする。

製作の指導。

製作する材料は主として畫紙を使用する。菓子は畫紙で、圓柱形に巻いた形のもの、或は四角形等にし、色紙を張つて、ケーキの様にしたのや、色紙を折つたもの、その外、單に色紙を切つたものを種々に作る。菓子を入れるものは、正方形、長方形の畫紙の四隅を切り、浅い箱の蓋の如きものや或は圓形に切り、三四ヶ所一纏位切り込んで、少し合せて張りつけ皿を作る。玩具の皿があればそれを利用するもよい。果物は粘土を使用してよいが、畫紙に繪をかきクレオンで色どりして切抜かせる方がよい。

其他木の葉や木の實を利用したり、竹の笹で作つたりするもよい。

おみやげもお客に來た人が歸る時に渡すもの、お客になつて行く時持つて行く物などを考へてもよい。これも畫紙で小さい箱を作り、中に色々の品を入れ、玉手箱の様にし

ておく。

(注意一)これは一例で兒童の創作を重ずることが大切である。

(注意二)仕事は分擔するも早く出來上つた者は他のお手傳をすることは勿論である。

準備が大體終れば次の行動にうつる。

(三)お遊の場所へ……お天氣がよいから、お外でお遊び致しませう。(教室にても可なれど差支へない限りなるべく屋外で遊ばせたい)どこがよいでせう。本校の門へ行きませんか、(本校の表門の傍は小高い處や木の蔭があつて子供の遊び場所として唯一の處である)そうさう先生本校がよいですね。それではみんな本校へ行くことにしませう。筵(疊表)を各組一枚づつと、お道具(クレオン、エンプツ、畫紙等)もみんな持つて行きませう。木の蔭の涼しい處もよいでせう。石段もよいでせうし、クローバーの上もよいでせう。けれども坂になつてゐるところ(傾斜面)はお客様が坐りなされるのに都合が悪いから止した方がよろし。

(四) お手紙(招待状)……お仕度が全部すみましたら、お客様に来て戴く様にお手紙をお出しなさい。先生も孝之君のお家の仲間になりますから、お手紙を下さいよ。

「ケフハ ヒロ子サンノ オタンジョウ日デス カラ

ミナサン デ アソビニ キテ下サイ オマチシテ

キマス」 カホル

「ケフハ ボク ノ タンジョウ日 デ オイワイノ

クワイ ラ イタシマス。オモシロイ オハナシヤ、

オアソビヲ シタイト オモヒマス。ミナサン ソロ

ツテ アソビニ キテ下サイ」 勝己ヨリ

ミナサンへ

こうしたお招きの手紙を出し、一方お招きを受けたならば、その手紙を持つて、お客さまになつて行く、家が留守になつてしまはない様に、更代しては、行く。

(五) お遊び……いよ／＼遊びを始めたなら教師もお客の一員となつて、遊びに行く、数ヶの組に行つては、挨拶をし行儀作法の模範を示すのである。

教「ご免下さる」

兒一「いらつしやい」

兒二「どうぞお上り下さい」

教「はい、それでは上らしていただきます」

教「今日はヒロ子さんのお誕生日ださうで、おめでたう

ございます」

兒「お菓子をあがつて下さる」

教「有難たうございます。まあ美味さうな菓子ですね。

それでは戴きます」

こんな風に教師も共に遊び、兒童相互にも遊びが行はれる。

(六) 遊戯への發展……お客と面白い話をするのもよろしい、正月頃なればカルタ遊び、双六遊びもあるであらう。が又お客様と鬼ごつこしたり、お手々つないで、等をして遊ぶのも面白いのである。

一組が筵の上で「お手々つないで」と唱ひながら、はじめ出した。單調に流れる恐れがあるので、他の組にも、こちらでもやりませう、といふ工合に轉換を促す。

先生私達は「猫々子猫」をやりませうといふ。この遊び

は一人が猫になり中央に、しやがんでゐる、他は圓陣を作つて、手をつなぐ今一人鼠になる人が圓陣の外にゐる、次の歌を歌ひながら、手をつないでぐるぐ廻る、歌が終ると猫が飛び出して、鼠を捕まへる遊びである、猫、鼠になる人は交代しては行ふ。

猫、猫、子猫、名はおしづ

お静や お静、静かに行つて

鼠と鼠をラララララ、、、、、（この時猫がとび出す）

何度もやつてゐる間に幾組かに分れてゐた者が一人來二人來、しばらくはお客であつたのを、忘れたかの如く、三十人全體が一組になつてしまふ。

二三回すむと又「お手々つないで」をみんな一所にやりませう、と希望が出る、其の他「櫻々やよいの空は見渡す限り……」等それからそれへと、表情遊戯が發展する。こうした表情遊戯は、幼稚園教育を受けてゐる児童が多い關係、自發的に喜んで遊ばれるのである。

(4) 遊び後の指導

面白く遊ばれた學校生活の有様「お客遊び」の事をお母さんにお知らせする爲に、文を綴つたり、遊んでゐた時の繪をかいたり、又自分達のお客遊びの模様を小學國語讀本卷二にある「オキヤクアソビ」の文を参照して記述するといふ様に、遊びより發展し知識方面の指導が行はれるのである。

紹介が後になりましたが、以上の「生活全體教育の低學年教育」は、全く従來の小學校の型を離れた教育法であります。教育改造の聲高い中にも、初等教育を教科中心主義から兒童の生活にかへせとは、強く呼ばれて居る問題であります。東京女子高等師範學校附屬小學校では、この刷新的な低學年教育法を卒先、研究實施して居られるのでありまして、今や同教育法は全國低學年界の注目を集め研究の機運に到らせた様子であります。

幼稚園と直接な關係にある低學年教育の生活化は、生活主義を以て本領とする幼稚園側としても、大いによるこぼしい事と、こゝに其の全貌を紹介することに致しました。（編者）

秋詠集

よ
し
こ

長き夏休み終りて、組の幼児とあふ

のびおそき子とし見えしが久々にきく言の葉はなみくならず
ふとしたる舉動に見し聰きこゝろ今日にして漸くに知る
一學期泣きをつゞけし子はわれに心馴寄りても物語らんとす

叢に蟲を追ふ

一つ蝶追ひて及ばず追ひ遠く駈けめぐる子に陽はさかりなり
魂あひの友も一とき友ならずくさむらに蟲をしきり追ふむれ
とまる蟲に及びなんとし子の寄ればほろゝこぼれぬ白萩の花
この道を歸り急ぐに木せいの香はたゞよへり郊外のよる
大き息してしばしを立てり木せいの香のたゞよへる歸り夜の道
このみにて植えたるはみな木なり秋庭は雁來紅の朱もあるべし

あるとき

寝てがてに夜半書きつゞればあやしくも筆のすゝみのこの時早き
身疲れレコードきけば遠の家と同じ音のせり郊外の秋

秋と園外保育

秋も酣になりました。明朗なる大空清澄なる大氣のこの節には、幼稚園保育は保育室から庭庭に、更により自然なる境地を求めて園外へと持ち出さざるを得ません。方に園外保育の好季節であります。都會地では分けてもこれを必要としますが實行に當りましては種々の困難を伴ひますので、御經驗深い諸園の模様を伺ひ参考とすることに致しました。御寄稿戴きました諸園に厚く御禮申上げます。

(記者)

昭和七年度の秋の園外保育

麴町區 麴町幼稚園

三、場所 埼玉縣膝折東圓寺(芋掘り)

方法 幼兒は付添人と共に午前九時頃池袋驛東上線ホ

ームに集合。當驛より膝折驛迄東上線にて参り

驛より約十丁徒歩、東圓寺に至り附近の畑にて

芋掘りを行ひ、晝食後は境内にて自由に遊ぶ。

午後二時頃歸途につく。解散は池袋驛。

附記 會費は付添人の分のみ徴集する。

一、場所 麴町五番町公園。清水谷公園 落葉ひろい。

方法 徒歩。辨當なし。

二、場所 上野公園内動物園。

方法 省線電車にて市ヶ谷驛より上野驛迄まわり、他

は徒歩。付添なし。園にて集合及び解散。辨當

各自持参のこと。

園外保育の概要

東京市四谷區幼稚園

當園にては大正二年創立の秋より大正十四年の秋まで毎年十月中旬頃市ヶ谷なる陸軍士官學校に參觀した。幼稚園より學校までの所要時約一時間、あの可愛らしい行進には極めて適當なるものであると思ふ。幼児達も毎年この行を樂しみ待つ。當日は幼児一同幼稚園に集合出席多きときは百六七十名、少なきも百二十名、職員五名にて引率し、園醫付添實習生も同道す。保護者の付添人はなるべく少なくする方針にて年長の兒は大部分ひとりにて行く。九時出發四谷の大通りを行き十時到着正門より入り、あの青々とした芝生や美事の松樹その他種々の樹木を眺めながら清らかなる坂道を小さい長い二列が元氣よくウネ〜と登りゆくさまは何といふ氣持のよきことであらふ。みなにこ〜として居る。正面玄關前に整列、將校や下士官の案内にて一定の控室に暫時休息の後、武術、馬術、體操など見せて頂だき、校庭の一部を順廻し途すがら兜松や大きな池など見る。又校内の一部の厩、炊事場等を參觀す、其間幼児は相應の觀察をしてくる。之は後に園にて自由畫に依り、はつきりわかることである。十一時半頃に控室にて各自持參

のお辨當を開きゆるりと充分に食事をとらせ、午後は校庭にて自由に遊ばせる。この時の幼兒の悦びは實に大きいものである、小山に駈上るもの、團栗を拾ふ者、赤マンマを摘むもの、それはそれは大喜びで誰も〜にこ〜顔によく遊ぶ。いかめしい將校の方も釣り込れて栗の實や椎の實など拾つて下さる方もある、學生は珍らしく思つて休み時間には幼兒と共にハトポツポを唱ふる子ども好きの方もあつる。仲々興は盡きないが豫定の一時半には校門を出て裏通りを幼稚園に二時半頃歸着。大正九年十月二十日には秩父宮殿下御在學中とて校庭にて、教室より御學門所に御歸りを拜し上げ、一同最敬禮を申上げた。この時には特に午後殿下の御組の教練を許可を得て拜觀申上げた。一同大悦び歸園後區役所に報告の際區長も大に喜ばれ、今回の幼兒は合せであると申された。大正十五年には學校の改築中につき御遠慮して其後數年來學校の參觀は中止してある。本年は復活したいと考へて未だその運びにいたらずにをる。

學校參觀の如きは幼兒の心身發育の上に多大の效果を得ることと堅く信するものである。

本郷區 第一幼稚園

過去の園外保育の實際につき御下問にお答致します。

(1) 何處に連れ行くか

動物園 植物園 豊島園位なものでございます。

(2) どんな方法で連れ出すか

數年前迄は當日は幼児一同幼稚園に集合（必らず付添を要す）列を組んで参りましたが近來のやうに交通がはげしいと途中の危険が案じられますので此頃は皆家庭から其場所の門前に集合待合せることに致しました。

問題外ではございませうが内容につき簡単に申上ります。扱先方に着きましたら暫時休息致させまして後、自由に園内を散歩致します。動物園植物園等ならば全體を數組に分けて保姆が分擔して順序よく引率してお話をしながら見學致します。

豊島園では彼の扇形芝生の野外廣舞臺で幼児の童踊を致します。保護者は池を隔て、向側の觀覽席で見ること致します。

しました。伴奏は豊島園少年音楽隊にお願ひ致します。凡一週間計前に所要の樂譜を送つて、練習をして於て頂きます。此樂隊に浮かれて歌ひつ踊りつする時の幼児の愉快さうな様子には見て居る者迄つりこまれて秋晴れの日光をあびながら一同拍手喝采して見物する有様でございます。

夫がすむと晝食になります。午後一時迄又自由に遊ばせて置きます、一時になりますと合圖の鈴で一同集め甘藷畑に引率してお芋掘りを致させます、然し是は少し不都合な點を感じましたので一年限りで後は致しません。其代り百姓に掘せたのを網袋に入れますに單に遠足のお土産として各自家庭に持歸らせますことに致しました。どうも此方は不公平がなくて非常に喜ばれました。

兩國幼稚園

本園の秋は毎年甘藷掘と定めて居ります。但し場所は年々違ひます。市電或は汽車に便利なる所を選び春秋共に園に集合して寄附の園名小幡を持ち幼児一列として左に付添

をおきて進み、市電又は汽車に乘ります。

本年は千葉の中山と略々定めました。

芋の場所は毎年人数に依りて定めますが、凡そ百坪より百二十坪を買ひ置き、當日の朝手の蔓を少し残して葉其他を取除けさせて、幼児に掘り易き程度に鋏を入れて置きます。

出發は午前九時頃にて先方へ着は午前十一時前位になりますが、皆食事を急ぎます。此の日は時間を定めず、中食を致させます。食後十分も過ぎましたら畑に行く用意をなさしめゆる／＼出かけます。

田舎畑の廣々したる路傍に種々の優らしき草花の咲き誇りたる様を視、又は摘み取りてまゝごとの材料にと御土産澤山に持ちかへります。下町の子供としてはなかく興なりし。

方法

幼児を組別として各々一貫目入位の袋を持ち作内に引率して一人に一株づつ當がひ掘らせて保姆注意して力の足らざる幼児に補助して満足を得せしめ終りに少なき幼児には

足してやります。終りに付添を入れて自由に掘らせます。是がなかく面白くて小僧などは三貫目位掘ります。

前の空場に戻り手を清め又菓子水菓子等を食したる後、寺内を自由に遊び廻り、午後三時少し過ぎの汽車にてかへります。驛にて散會。

歸り支度の後、園の土産として繪双紙或は玩具を與へます。

日本橋區

常盤尋常小學校附屬幼稚園

園外保育の場所は、本年度に於ては、四月に植物園、五月に豊島園に参りました。

幼児を連れ出す方法としては、別に申上る程のこともしませんが、二回とも大體、次のやうな方法でいたしました。

まづ園外保育の前々日に、家庭へ其時日、目的地、集會地、其他諸注意を書いた通知書をやりました。それによつて當日は、各自付添人同道の上で指定地に集會いたしました。

た。付添人の入園料は、團體割引券を買つて渡し、後日料金を徴収いたしました。十月中旬には、同様な方法で井之頭公園へまゐる豫定でございます。次に、これは昨年のも二月でしたが暖い日を遊んで、家庭よりの付添人なしで、保姆二名と小使一名で、一組づつ交代に、省線電車で上野動物園へ連れてまゐりました。

又先年東京遊覽自動車三臺に幼児全部を分乘させて、父兄の付添なしで幼稚園より、洗足公園に往復した事もございますし、一臺の自動車で三回往復して、全幼児を上野動物園へ、つれて行つた事もございます。

すべて、自動車で行きます時でも省電でまゐります場合でも、付添人の有無にかゝはらず、前以て家庭には通知をいたす事にして居ります。

浅草區田町 提南幼稚園

園外保育の目的として春秋とも或るよい時機を選び附近の今戸公園へ週一回凡そ四十分位を大空の下で自由にのび

くと遊ばせてやります。ママ事も致しませうし、又時にお伽噺も聞かせてやります。半丁ばかりのところではありますが、隊伍をなして連れて参ります。それを又非常に喜ぶので御座います。それで其の内の一日は遠足會を兼ね彼等の一番好む上野動物園へ参ります。この日だけは銘々付添つて貰ひますが行きだけは徒歩で歸途は各自隨意行動として動物園前にて解散致しますが、大變結果がよい様に思はれますので本年も、さう致さうと準備中で御座います。

麴町區番町幼稚園

行く場所

1. 多摩河原(麴町區林間學校附近) 京王電車終點(薄取り)

2. 西生田……小田原急行電車沿線(栗拾ひ)

3. 日吉……東横電車沿線(芋掘り)

4. 明治神宮外苑

5. 日比谷公園 上野動物園

6. 市ヶ谷八幡宮
7. 靖國神社
8. 日枝神社
9. 四谷公園
- 10 清水谷公園、等

連れ出す方法

これを申上る前に「林間學校」に就て説明を致します。

麴町區では夏期のみに限らず區で經營されて居ります「麴町區林間學校」と申すのが、十二月、一月、二月の極寒い時を除いて殆年中といふ位でございます。夏期以外のは「日曜林間學校」と呼んで毎日曜に何日は何校といふ表に従て或は希望者は日曜日毎にでも行かれる様になつて居り、勿論校舎も多摩河原にございます。昨年九月から幼児もこの日曜林間學校に希望者だけを保姆が付添つてつれて行く事にして居ります。なほ日曜でない間の日に「臨時日曜林間學校」として此校舎を利用して居ります、春はれんげ摘み秋はすゝきや虫捕りに。さて連れ出し方に就て申しますと此「日曜林間學校」の時は、

1. 前以て家庭に通知し前日までに出席人數と付添の有無を調べておく。
 2. 集合解散場所〓京王電車新宿驛（園から此處までは乗合自動車一區なので付添無しの人も此處までは大方送り迎を致します）
 3. 集合時間〓午前八時半（小學校と同時）京王電車は貸切で直通します。
 4. 解散時間〓午後三時（小學校より一時間早く。時には小學校と同時に四時の時もあります）
 5. 費用〓幼児、兒童一名一往復二十錢、付添には割引券を渡して各自で乗車券を求めさせます（割引した賃金往復三十四錢）
 6. 準備〓持て行くものは幼児の下着類二、三枚、携帯用の救急箱、呼びこ、目的地はよく案内がわかつてからは前以ての實地踏査にはまゐりません。
- 日曜でなく臨時として間に行きますとき、最近の例で申しますと、九月十五日のお月見に、使ふすゝきを取りに十四日に出かける筈で通知其他を用意致しました。然し天候

の爲之は二十日に實行致しました、此時は家庭からの付添
は特に希望する者だけで一般とし
ては成可付添をつけない事とし、

園から京王電車出發點までが丁度
乗合自動車軌道であるのを幸、特
に自動車課の好意に依て園から驛
までを大型の車參臺で往復とも運

んでいたゞきました。幼兒の喜は
申すまでもなく引率者としての私
共の道路遮斷の危険のないだけで
もどんなに有難いかしれません。

なほ日曜林間學校の時の幼兒の費
用は家庭負擔ですが、れんげ摘み、
すゝき取りの時は園外保育費とし
て園費即區費支辨といふ事になり
ます。なほ今年から麴町區學校園
といふのが林間學校の近くにあり、先日（九月二十日）行きました時にそこでもう不用だ



○二、九、七和昭（園農校學河摩多）園稚幼町番

といふ大根を抜かせてもらひました、土深く根のはつてゐ
る大根、たとへそれはヤセ大根で
も、土から抜くには幼兒は汗だくで
す。殊に男兒は、大よろこびでした。
翌日の幼兒の話に「おみをつけの
み、をろし大根にした、トテモおい
しかつたよ」との事でした。

多摩河原はかような特別の施設の
ある土地ですが、其他の西生田、日
吉等、初めて行く所は勿論一年も間
がある所はどういふ土地の變化がな
いとも限りません故、必ず前に保母
が出來れば全部で都合が悪ければ行
かれる丈の人数で實地踏査にまゐり
ます。西生田は九月二十八日に日吉
は十月上旬に幼兒をつれて行く豫定
で居ります。かように遠方へ出ます

時は必ず前以て家庭に通知し前日までに出席の有無付添の

有無の返事をとります。西生田は新宿驛集合、解散、日吉は澁谷驛集合解散ですがそれは付添のある人の事で家庭の都合上どうしても付添の行かれぬものは朝保婦が二手に分れ一組は集合地に一組は幼稚園へ、そして付添なしの人、

又はあつても道順の不案内の人小使衛生婦と共に集合地向ひます。幼児と職員の電車賃は皆區費支辨です家庭からの付添と幼児と合計した人員で百名以上二百名以上とそれ／＼の團體割引をしてもらひます。なほ實地踏査の時の注意として手洗の水、飲料水、不淨場とは必ず見落せないものです。

新鮮な空氣の中へ、紫外線を浴びに土へ、自然へといふ要求から努力してかように遠い郊外へ連れ出しますが、そして理想としてはせめて五、六月、九、十月は一週に一度でも或はもつとでもと思ひますが實際問題としては限られた經費がありますのでさう／＼まわりません、それでなるべく交通費をかけずに豫算の範圍内で（年五十四圓）一回の費用を少くして度々出られる様に苦心致します。家庭か

ら交通費位は出させてといふ案もありますけど世間が非常時の際故それは最後の方法として置いて、まづなるべく手軽にしかも遠く都會を離れられる事を工夫致します。

前記の6.以下は交通費をかけずに幼児が徒歩で行かれる所で全園行く事もありますが多くは一組か二組位で、特に家庭へ通知する事なしに出かけます、出来る丈は電車通りと交叉點を避けますが一回も電車道を遮断せずにといふ事はどうしても出来ません、幸に交番があれば一言警官にたのみますと幼児が横列になつて又一かたまりになつて一散にかけ出す間安全なように手をあげて下さいます。それ故少し廻り道でも、なるべく交番のある所を選んで横切りります。もし交番のない時は保婦が交通巡査の代りをします。なるべく自動車電車の往來のきれ目をねらつて前後に注意して両手をひろげて道に立ちます。自分の身體を子供等の楯にするつもりで、同時に道行く人にはすみませんが一寸待つて下さいと願ふ氣持で、相にく自動車や電車が後から來合せても道に立てゐる者をひいて行たりする事は決して

ありません。けれど立つてゐる時は命がけのつもりです。それで地下横断路が所々に出来たら都會の幼児の爲にどんなに幸でそして大人も命がのびるだらうと、毎々思はせられます。

外苑と日比谷公園へは片道徒歩で片道省線、乗合自動車を使ひます。これは年長組の子等が落葉ひろひに秋が深くなつてから出かけます。年少組は往復乗物で出かけます。外苑へは年長組は往復とも徒歩で（片道四十分位）出かける時もあります。日比谷へは片道約一時間、上野は往復とも省線電車を用ひます。日比谷には兒童係の末田先生はじめ皆様度々行くのでおなじみでもあり事務所以前以て願つて置けばお湯も沸して下さるし特に草地（廣場）へ入れてお辨當も使はせていたゞけるし、愛嬌物の熊さんはゐるし子供達は大喜びです。

東京市麻布幼稚園

さゝやかな園舎の窓から、さゝやかなタークレーの庭から、子供達が一本の梧桐の蟬に見入つて居る時、又狭い空の雲の動きに興じてゐる時、私共は、澄み渡つた空と、雑草の香り高い黒地に恵まれてゐる土地を思はせられます。ここでは、幼い美しい生命が、よりよく伸びて行かれるだらう、そしてどんなに、あの目が輝いて來ることか、手が足が、黒く強くなつて行くことか等と語り合ひつゝ、切に感じますのは、適當な場所、費用の不足でございます。せて現在なし得る限りを、子供と共に、計畫し、實行して行きますのを喜びと致して居ります次第であります。

次に記します表は、今秋の大方の計畫でございますが、少しでも御参考になりますれば、幸に存じます。そして、各國の御計畫を伺へますのを待ち望んで居ります。

秋 晩		秋 中			秋 初				時 場 所
芝 公 園	附 近 住 宅 地	第 三 高 女 校 庭	二 子 玉 川	附 近 空 地	附 學 近 校 建 築 小 學 校 場	十 番 通 リ	氏 神 水 川 神 社	宮 (高 松 宮 用 地)	
散 どんぐりひろい歩	散 木 葉 ひろい歩	寫 木 葉 ひろい生	遠 足	と 虫 ん ぼ と り	散 見 歩 學 (連 續)	散 買 歩 物 (連 續)	散 參 步 拜	ど ん ぐ り 拾 び	せ み と 生 り
及 全 保 園 姆 兒	一 組 及 保 姆	及 全 保 園 姆 兒	及 全 保 園 姆 兒	一 組 及 保 姆	一 組 及 保 姆	保 一 組 又 は 數 名 姆	保 全 園 姆 兒	保 全 園 姆 兒	
自 電 動 車 (五 分)	徒 步 (二 〇 分)	徒 步 (二 〇 分)	電 車 (五 〇 分)	徒 步 (五 分)	徒 步 (一 〇 分)	徒 步 (一 〇 分)	徒 步 (一 〇 分)	徒 步 (二 〇 分)	
水 ゼ リ 一 筒 等	な し	水 キ ャ ラ メ ッ ト、 筒 等	水 菓 べ ん た う	な し	な し	な し	な し	水 キ ャ ラ メ ル、 筒 等	
る も の	年 少 組 で 必 要 あ	る も の	年 少 組 で 必 要 あ	全 園 兒 有	な し	な し	な し	年 少 組 で 必 要 あ	
母 之 會 支 辨	な し	母 之 會 支 辨	區、 保 護 者 支 辨	な し	な し	母 之 會 支 辨	な し	母 之 會 支 辨	
									目 的
									入 員
									乘 物
									食 物
									附 添
									費 用

保育そのとき

倉橋 生

一、或日、私は、幼稚園の保母室のグリーンボードへ斯ういふ字を書きつけました。

秋晴るゝ日よ

子どもらの聲高し

外へ、外へ、外へ

一、まづ一番手近、否、足近の外が幼稚園の庭。あんなに

朝の日の一ぱいあたつてゐる庭。それにそむいて室内保育は惜しいものです。寧ろ、勿體ない位です。殊に都會幼児である場合、存分日光に親めるだけでも幼稚園へ通つて來る意義があるといつていゝ程なのに。

一、園外保育とは、多分私がいひ初めた言葉だと覺へてゐるが、その時分、私は随分氣が小さかつたものです。今なら、ぐつと大きいところを見せて、内も外もない、どこでも彼しこでも、みんな幼稚園だ位に言つて見たい。あなたの町も村も、野も丘も海邊も、一とくるみに、われ等の幼稚園と見なませう。

一、柿、栗、等々、お話の中だけでよく知つてゐて、ほんものゝ木を見たことのない子ども、見せてやりたいですね。

十月のぬりゑ

及川ふみ

梧桐とかたつむり

梧桐の葉の紅葉もなか／＼捨てがたいものであります。黄色く綺麗に色づいてゐるうちにみどりの色をあちこちにのこしてゐるのもあり、黄色とかば色と染めわけの様になつてゐるのもあります。

園庭におちてゐる葉を拾つて思ひ／＼にぬらせるとよいと思ひます。これは年長組にも年少組にもどちらの組の材料としてもよろしいでせう。

芙蓉の花

この花は一日きりのものであります。毎日の様につきつぎと開きますから一株二株の花がありますと幼児には充分観察の機會はあります。

花の色は濃い、桃色や、うすとき色や、白などありますが、うすとき色がぬりゑとしてよいと思ひます。

ひらいてゐる花一つ、つぼんだ花一つ、蕾二つで、つぼんだ花は開いてゐる花よりも色を濃くつけます。

これは年長組の材料によいと思ひます。

からすうり

郊外の散策の折、雑木にかんでゐる真赤なからすうりの姿はほんとに可愛らしいものであります。

實の一つは全部橙色に少しあかみをつけて、一つは橙色の一部分に緑のところを見せてぬるとよいと思ひます。

この材料は年少組のものに出来る事と思ひます。

秋の保育衛生

東京市兒童掛長
醫學博士 廣 瀨 興

秋は天高く馬肥ゆると云はるゝ時です。吾々も最も發育旺盛、健康の増進する時です。一時、酷暑のため、新陳代謝機能の衰えた時、涼風と共に、漸次、常態に復し、食慾も一層促進し、殊に小兒は發育も急速の増進を示すのが普通です。従つて、却つて過食、食當りのための消化不良症や、腸カタル、赤痢の多い期節です。朝夕の涼氣のため感胃に罹るものがあります。デフテリアの流行するときです。吾々はこの季節を利用して積極的に幼兒の健康増進をはかつて見たいものです。

登園の時、園兒の顔色に注意して、元氣のないもの、青白いもの、潮紅を呈してゐるものは、舌を出さして見るのも便法です。病氣があれば、必ず舌苔があつたり、やゝ腫脹したり、口臭があつたりして、普段と異つて滑らかではありません。こんなときは、只、額に手を當てゝ看るばかり

でなく、檢温器をあて正確に、熱を測つて見ねばなりません。保姆は舌壓子（又はコーヒースプーン）で幼兒の咽喉の検査が出来る様に常々練習して置くことが肝要です。癩疹なれば、兩頬の内面に粟粒大の周圍に紅曇のある黄斑が十數個つゞ密生してゐます。（コプリツク氏斑と云ふ）これは未だ固有の發熱、紅斑等の現れない中の早期診斷に役立つものです。咽喉の兩側に扁桃腺が單に赤く腫れて居れば扁桃腺肥大か、炎症の始めですが、若し、その表面に黄色の苔が附着してゐればデフテリアの疑ひがありますから、直ぐ醫師に相談せねばなりません。

園兒全體に、デフテリア豫防注射（フォルモワクチン）して置けば安心です。危険のない確實の豫防法ですから。赤痢疫痢の豫防内服薬（ピリワクチン）は未だ完全とまで行きませんが、デフテリアの方は豫防ワクチンも治療ワク

チンも殆んど理想的のものです。是非、家庭にすゝめたい
ものです。

秋は果物や木の實の多い時ですから、幼児の胃腸は特に
注意が肝心です。便所に行く幼児は、よく氣をつけて早く
腸カタル、赤痢を發見せねばなりません。喰べたものがよ
く判つてゐて、例へば、ブドー、豆、粟、芋などの喰過ぎ
なれば、早くヒマン油十五瓦の頓用を家庭にすゝめること
です。早く不良の腸内容を排除する手段をとるべきです。
そして後はしばらく絶食せしめる位に空腹にして置く方が
よろしい。

夏からの薄着や、冷水摩擦の習慣は家庭と連絡をとつて
續ける様にしたい。併し四才以下の幼児は冷水より乾布摩
擦がよろしい。これも特に早朝でなくとも、入浴後でも効
果的である。ラジオ体操の後なども大に結構です。

日光浴と肝油飲用もこの頃から始めるとよろしい。虚弱
兒や腺病質兒に肝油を毎日コーヒースプーン一杯か二杯與
へるのは好いことですが仲々、家庭では出来ない、併し幼
稚園では容易に出来る。中食後や、おやつの後水に浮べ

て、大勢一度に飲めば、割合幼児は嫌がらぬものです。

日光浴は風のあたらぬ日當りよいところで、上着をぬが
せて直射日光の下に遊ばせればよい。帽子をかぶること、
水をよくのませしておくこと、必ず風のないところといふ條
件が大切です。そんな無風の所がなければ、又冬の眞中と
もなれば、室内で「セロツアン」紙の窓を通して日光浴を
するのがよい（この方法は次號に委しく述べます）この秋
の頃より皮膚を成るべく日光にさらす習慣をつけておくこ
とを心掛けませう。急に冬になつて、あわてゝ試みては必
ず失敗いたします。

肝油と日光浴の前に體重測定しておきますと數日で急速
の體重増加するのが判ります。

夜尿症の兒はそろ／＼秋口から、甚しくなりますが日光
浴と肝油で治るものもあります。飲料を制限する方法は以
前より行はれてゐますが、却つて反對に飲みたいだけ飲ま
せて夜尿した時刻を記録しておくのです。斯くすること約
四五日で夜尿の時刻が大體何時であるかと正確に判る兒が
あります、その時はその後當分の間その時刻の少し前に醒

覺させて放尿させる習慣をつけると、遂には放尿が治ります。これは膀胱が充滿に堪える習慣がつくのです。私はこの方法によつてある低脳兒收容所で殆んど夜尿兒を無くした例を知つてゐます。一度は試むべき方法ですが、母親の餘程の努力が入ります。

山や林間の遠足の季節です。ウルシの葉にかぶれたり、毒虫に刺れたりします。東京の郊外、井頭公園に雨降りあがり散策して、マラリヤに罹つた兒がありました。臺灣とかピワ湖の近くによく流行する有名の沼地もありますが、東京の郊外では稀しいことです。間歇的に高熱が出てその中間は全く無熱で症状がないのです。マラリヤ病原體を保有してゐる蚊に刺されると罹病するのです。キニーネを適當の時刻（丁度、人體内で病原體が繁殖分列する時）に服用すると治ります。

毒虫に刺れたら、直ぐなれば薄いアンモニア水塗布。なければ、オゾ、メンソレタンをよくすり込んでよい。近頃沃度丁幾の代用で、しかもカブレたり刺戟したりしない消毒藥マイクロクロームも効果がある。ウルシカブレはよ

く便通をつけて、脂肪分の少い食事をとり、患部に、五％グリテール亜鉛萃オリーブ油を塗り、胃腸藥を内服せしめるのです。

田舎の秋は楽しい茸狩りで賑ひます。松茸、初茸、しめじなどいろ／＼食べて美味のものがありますが、又極めて猛毒のものもあります。よく、知られたものゝ他食べては危険です。山遊びの折、子供に採らせるのも注意すべきです。「ツキヨタケ」「ハイトリタケ」「ベニタケ」など毒々しい色のものは皆な有毒です。誤食して中毒するもの多いことは毎秋、随分多數の統計が示してゐます。嘔氣、嘔吐、流涎、發汗、腹痛、下痢、遂ひには眩暈、胸内苦悶、脈膊遲徐、瞳孔縮少甚しいときは痙攣、昏睡、時には酩酊状態、躁暴状態を呈し、死に至ることさへあるのです。

秋の自然は吾々にとつて、心地よい晴々とした誠に活動的な生活、健康増進的な季節です。又一面、それだけいろ／＼の陷阱が待ちかまへてゐます。注意して、來るべき消極的の冬の生活に打勝つ充分の貯へをいたしませう。

花壇並に花壇用草花年中行事

—(十)月—

日比谷公園花壇係 富 本 光 郎

秋植球根類の植付

六月頃に掘り上げて貯藏しておいた春咲球根類は今月初めよりおそくも來月初旬迄位に植付ける様にしなければならぬ。

チュリツブ、ヒヤシンス等此頃は可成りの小兒でも大抵その名前を知つてゐる位に普及されて最も一般的のものであり又極く作り易いものであるから何れの家庭にも之等の幾株かを是非植付けておき度いものである。

球根類は殆ど大部分移植を嫌ふものであるから花壇に直接植込まなければならぬので豫めよく土壌を深耕し、元肥として少し深めに堆肥、骨粉、過磷酸石灰、草木灰等の混合したものを施しておく。

土壌は砂質壤土を最適としてゐるが他のものとは異り重い土でも軽い土でも、總て相當に開花してくれるものである。

植込の深さはその種類、球根の大小等によつて夫々異なる譯であるが標準としては球根の高さの三倍位の深さにすればよい。

植込の間隔はこれは種類によつて可成違ふものであるが春植球根のダリアカンナ等とは異り、一般に丈低くあまり横に擴がらないものであるから、これも、球根の大小によつて三寸位から六寸位の見當にしておけば大した間違はない。

球根を購入する場合には大體としてどの種類も球の大きいものがよく、それからなるべく重く、肉質のしまつてい

1. 一重早咲種

クラモイシー・ブリアント(鮮紅) ピンク・ピウテ

ト・ピウテ(白)

ライジング・サン

(黄) カイザー

ス・クローン(濃

紅綠黄)

2. 八重早咲種

バーバーク(鮮紅)

アンナ・ルーズ

(桃) コーロン・

ドール(濃黄)

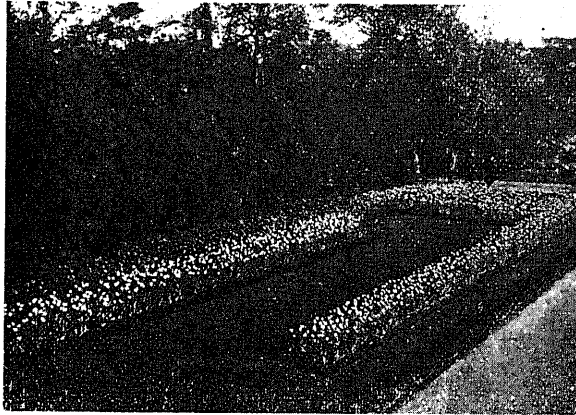
ターバン・パイオ

レット(紫紅)

ブランシュ・アチ

ープ(白)

3. グローキョウ種



(関公谷比日) 壇花の開満ブツリユチンキウーダ

ユーローブ(鮮紅) ブライド・オブ・ハーレム(濃
紅) プリンス・オブ・ザネザランド(濃桃) ク
ラ、バツト(桃) ブリユー・エイマフ
ル(紫) フェリツブ・ドコムミーヌ(黒紅)

4. 五月咲種

イングレス・コム・スカレット(鮮紅)

イングレス・コムエロー(純黄) イング

レス・コムピンク(藤桃) ロイヤル・ホ

アイト(白)

春花壇用草花の挿芽

先月下旬より十月中旬迄位はゼラニウム、
美女櫻、ペゴニア、ランタナ、ペチニヤ、ヘリ
オートローブ、マガレット、松葉菊、姫松葉菊、
夏雪草等の挿芽の好期であるが特に花壇植用の
ものとして大事な美女櫻、ゼラニウム、ペゴニ
ア、マガレット、姫松葉菊の五種は是非今挿芽
して用意しておかなければならないもので、二節か三節つ
けて短かく切り砂まじりの軽い土に挿して半日蔭にしてお

けは直ぐ活着するものである。

根を下してから十日位経つて四寸位の鉢にマガレット、ゼラニウムは一本宛、美女櫻、ベゴニア、姫松葉菊は三位相當の肥料分を含む土を用いて植付けておくので今月初めに挿したものでならば下旬頃か十一月の初めに鉢植とする事が出来る様になる。之等五種のもは宿根草ではあるが冬季寒さに弱い物であるから翌春三月迄はフレーム内で(冷床で十分なのであるが)育て、やらなければならぬ。

アルターナンセラの霜除

秋花壇に植付けたアルターナンセラは極めて霜に弱いものであるから、出来るだけ長く觀賞する爲に、少し手數ではあるが、今月の終り頃から孤などで夕方霜除をなし、翌朝とり片付けるといふ風にして十一月下旬頃まで保護してやる必要がある。霜除をすると云つても只孤を上から、ぢかに覆ひかけてやるだけで十分なので、これを怠ると烈しい霜などに一朝會ふと眞黒になつて折角の美しい花壇が見る影もなくなつてしまふものであるから、少し面倒でもこれは是非行ひ度いものである。

この作業はよそではあまりやつていない様であるが日比谷公園では毎年これを行つて、そのまゝにしておくと十一月初旬には見られなくなつてしまふ花壇を十一月下旬までよくその美しさを保たしめてゐる。

其他の作業

一、先月下旬播種床に播いた秋蒔草花は今月中旬頃には可成伸張して来るから第一回の假植を行ふ。此假植が後れるとひよろしくした苗になつていけないものであるから出来るだけ早く行ふべきである。之等の管理はすべて春蒔草花と同様である。

一、ダリアは今月中下旬頃最も立派な花を持つ時であるからなるべく餘分な腋芽や蕾は常に注意して摘除し精力の浪費を防いでやらなければならない。

一、夏から咲き續けている物や又秋咲の草花、即ち百日草、姫ひまわり、醉蝶花、松葉牡丹、天人菊、翠菊、サルビヤ、トレニア、コスモス、鶏頭等の種子は晴天の日を選んで完熟しているものから怠らず採取し、二三日蔭干にしてよく調製し、冷涼な場所に翌春まで貯藏しておく。

園藝曆 (十月 神無月)

大岩金

寒露 九日頃

氣節土用 二十一日頃

霜降 二十四日頃

觀賞

澄み渡つた大空をあほいでは又自然と人工とによつて育てられた畑の花に目を下すことが度々あります。子供の元氣さをうつしたやうな直赤なサルビヤはまだ今月になつて勢盛んなものであります。スツとしてやさしさの感じられるのはコスモス花と、葉と一寸調和のとれない氣持のするシオン。是等は今月の觀賞の主なものでありませう。その外葉物ではコリウス、アルタナンセラ、イレシネ等は鉢に

あつても畑に下しても美事であります。

秋菊に先立つて有禪菊、濱菊も見頃になり第二回目のダリーヤの開花も春よりか一層立派に見えます。

又日ましに色づく木々の紅葉は誠に美しい眺めであります。

半ば頃に色づく楓を始め、柿、ニシキギ、銀杏、蔦、櫻ボブラ、スズカケ、ハンテンボク、アラギリ等大方の落葉樹はこうして或は紅に或は黄に、赭に又は褐など夫々に染めなしてやがては一雨一風毎に枝を離れてゆくのであります。

仕事

一、繁殖

イ、株分

播種に續いて春咲草花の株分を致します。その主なものは雛菊、アルメリア、蒿蒲類、シヤスターデージー、ストケシア、觀賞用除蟲菊、デキタリス、泡盛草等であります

ロ、挿木

落葉物の挿木は春發芽前の挿木と同じく今月から來月にかけて行ふのであります。中にもツルバラの如き春早く芽の動きましますものは秋のうちに挿木した方が活着し易いやうであります。

挿木します注意としては追々に寒さに向ふのでありますから挿床はなるべく日當のよい所に設けておくのであります、又挿した後もしつかりと壓へておいて少しでも土のうき上らないやうにしておきます。

草花類ではマツバギク、美櫻、ヘリオトロップ、ランタナ、サルビヤ等挿木するのであります。是はフレイム又は是に準じた箱の準備が必要であります。

二、移植

庭木類の移植の好季であります。又果樹の苗木もこれから十二月までが植付時になつて居ります。

芝の張付も今月中にすまさなければなりません。

三、フレイムの用意

普通使つて居りますフレイムは幅一二〇釐長三六〇釐の大きさの木框であります。幼稚園では是に準じたもので大きさも今少し小さい方が管理がし易いかと思ひます、都合によつてはビール箱を利用して底をぬき上は硝子障子をかければ結構であります。油障子にしても差支へありません、又框は光線のなるべく澤山入りますやう前側を少し低くしておく事が必要であります。

かうした手製のフレイムの中には月末から畑に植えておいては霜除をしなければならぬやうなもの又はフレイム内で栽培するものとしては低温度で育つものを入れる事に致しませう。小さい箱のことです。すぐ一ぱいになりさうです。先づパンジーの一鉢二鉢、可愛い雪割草も福壽草も入れたい氣がします。美女櫻、マツバギク、などもなるべく澤山挿した挿箱も一つは入れたいものです。

四、蔬菜の植付

草苺の蔓を親株に近い方から第三節位迄の所を一節毎に切り離し是も植付け致します。

百合の類も半日蔭の所に植付けておきませう。

五、收穫

イ、採種

サルビヤ、コスモス、雁來紅を始め秋咲草花の種子を熟すにつれて採つておきませう。わけてもサルビヤは注意しませんと地に落ち易く適期をすこしてはほとんど採種が出来なくなりませう。花瓣のやうに見える萼は赤くても中をのぞいて種子が黒く見えれば採つてよいのであります。

ロ、蔬菜類

落花生の莖葉が黄ろくなり七分通り落ちてきましたならば掘り取つてよいのであります、次へ／＼と續いた實みんなどで仲よく引張らせませう。

苦瓜ヒイももう收穫の終りをつける事になりました。

下旬になりますと料理菊の花が開きかけますから隨時收穫を始めてよろしいのであります。

新刊紹介 「子供の舞踊」

先きに「エホンシヤウカ」が、東京音楽學校の日本教育音楽協會によつて出版されましたが、此の度又、同協會によつて「子供の舞踊」と云ふ、二卷より成る本が出版になりました。之は「エホンシヤウカ」の大部分並に「新尋常小學唱歌」の一部の歌に振をつけたもので、序文にもございます様に、印牧季雄、澁井二夫、土川五郎、戸倉ハル、三浦ヒロ、宮寺嘉一の六氏に編纂並に振付をされたものでございます。どちらへも偏せず、幼稚園に採用して適當のものが多數ある事を御知らせ致します。發賣所、其の他は左の通りでございます。

發賣所 音楽教育書出版協會

東京神田區猿樂町三〇

振替東京六四七七〇番

噴 水

文 部 省 新 訂 唱 歌

♩ = 84

キ シ ヤ ギ シ ニ カ ガ ヤ イ テ
キ シ ヤ ギ シ ニ カ ガ ヤ イ テ

ソ ー ラ ラ メ ガ ケ テ フ キ ア ゲ ル
シ ブ キ ト ナ ツ テ ー フ ツ テ ク ル

フ シ ス キ ノ ミ ズ 一
フ シ ス キ ノ ミ ズ 一

バ ツ ト オ ホ キ ク ヒ ロ ガ レ バ
サ ツ ト ク ズ レ テ フ ロ キ チ レ バ

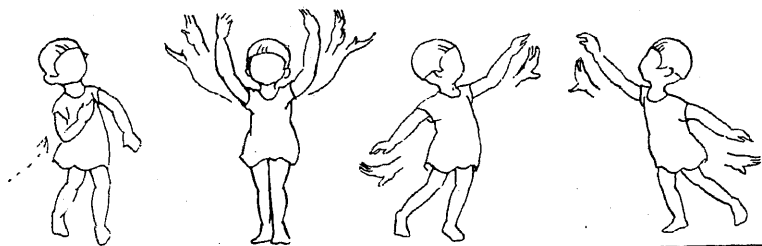
イ ケ ノ ヒ ス ゴ ヒ ガ ン チ ョ ッ ト ハ ネ タ
イ ケ ノ ヒ ス ゴ キ レ ン チ ョ ッ ト ハ ヌ レ タ

噴 水

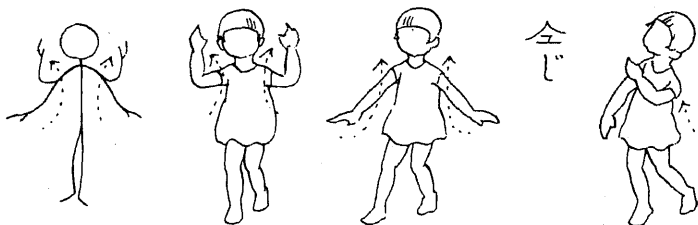
土 川 五 郎

- 一、金や：：右足一歩右へ右手先をつまむ様にまごめこれを左下より體前を通り右上にあげ掌を右上に指先を立て大きく手先を開く顔は右上に向く
- 銀に：：左足に體重を移し左手先をつまんでまごめ右下より左上へあけて手先を開く
- 輝いて：：兩手を真直に頭上へ突きあげ手足を廻轉す
- 空を：：左足一歩前に右肩を下け右手(指先をまごめたる)を右下より左上へすくひあける如くあげ頭を左に傾けて其方を見る(つまみたる手先は噴水の口)
- めがけて：：右足一歩前に左肩を

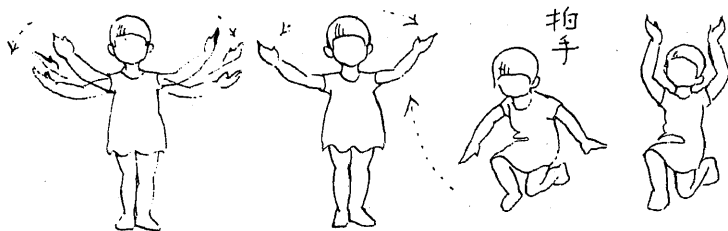
を空 てい輝 に銀 や金(-)



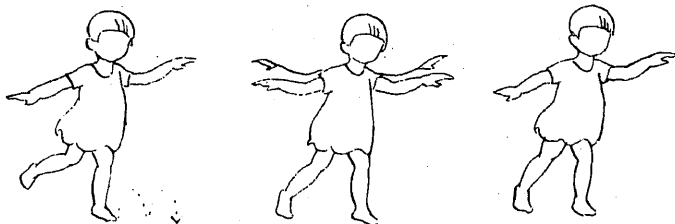
みの いす んふるげあきふでけがめ



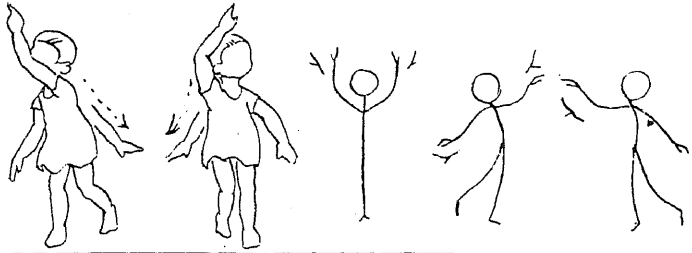
ばれがろひ くき大 とつぱ ず



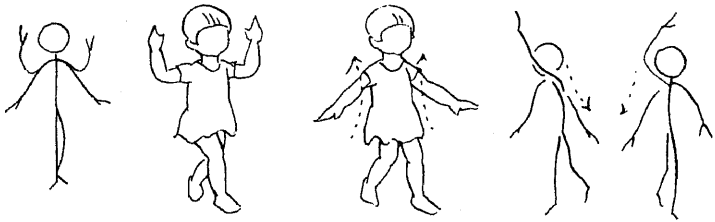
たねほとよち はひごひ の池



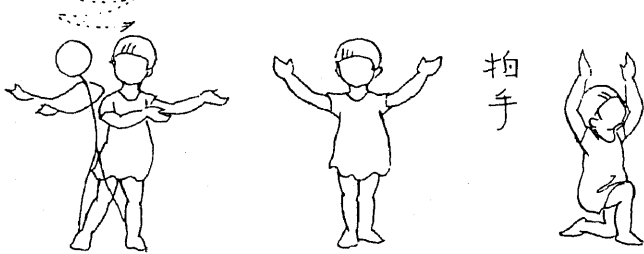
てつな　ときぶし　てい輝に銀や金(二)



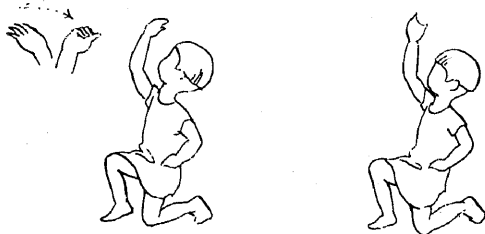
みの　いす　んふ　る来て降



ばれちきふ　てれずく　とつさず



たれゆとよち　んれいすの池



SINKITI

下け左手を前と同じくして左上より右上にあけ頭を左に傾けて右上を見る

ふきあける…右左ミ前の如く繰返す

ふん…両手先の指を曲けて丸くし、左足を引き胸は正しく前に向け、兩側より顔の前を通して上へ兩手をあぐ

する…両手を少しく下けて左右に開く

のみ…右足を引き兩手を前の如く兩側よりあけて又開く

づ…かゞみつゝ兩手を一層高くあけてそれを見る(兩手脈所を相對させ掌を上に向く)

ぱつミ…拍手して立つ

大きく…兩手を頭より左右に開く(兩手先は肩よりやゝ高く迄開きて止む)掌やゝ上を向く

ひろがれば…兩手を次第に兩側より下におろし肩の高さに止ぎめ左右に大きく開き兩掌を左右に向く様に開く

池の…左足一步左へ上體を左に傾け兩手を左右に開く體重は左足に托す

ひごひは…兩手を柔かく上下に動かすこゝ二回

ちよミはねた…二回跳ぶ

一、金や銀に輝いて…第一に同じ

しぶきミ…右肩を下け五指を正しく揃へたる右手を左上にあけ(掌を向ふに向け)右足を引く時右下方に流し顔

は左上に向く

なつて…左手を右上に送り左肩を下け左足を引く時に左手を右下に流し顔は右上を向く

降つて来る…前と同じく右左ミ繰返す

噴水の水…左足一步前に第一の如く右足一步前にして又同じく三步目に右足を出してかゞみ兩手を頭上にあぐるこゝ第一に同じ

さつミ…拍手して立つ

くづれて…兩手を頭上にあけ掌を向ふにし五指を開きこれを左右肩の高さ迄開く

ふきちれば…兩掌を向き合せ左右左ミ三回振る

池(の)…右向きをなしてかゞみつゝ右手を體前より頭上にあぐ

するれん…極めて靜かに柔かく體ミ一所に左右左ミゆれる(顔は花の方へ)

ちよミゆれた…極めて靜かに柔かく體ミ一所に左右左ミゆれる(顔は花の方へ)

稟告

一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說
 調査研究等の寄稿を歓迎いたします。
 一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字
 下げること、また句讀點は一字あけること。
 一、寄稿竝に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新
 刊書、交換雜誌、入會手續、更に
 本誌の購讀及び廣告に關する通信竝に照會等一切
 左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内 日本幼稚園協會

一、本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵
 券代用の場合には總て一割増）
 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七
 二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せ
 られたし。
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特
 に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封
 に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送
 金を願ひます。
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひ
 ます。

價定

一ヶ月分一册	金參拾五錢	送料壹錢
半ヶ年分六册	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳册	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和七年十月十二日印刷納本
 昭和七年十月十五日發行

幼兒の教育 第三十二卷 第十號

不許複製 禁轉載

編輯兼發行所 倉橋惣三

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

印刷者 柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷所 杏林舎

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

告廣

特等面一頁 金參拾圓	二等方面一頁 金貳拾圓
一等方面一頁 金貳拾五圓	一頁以下御斷

神田區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい。

廣島文理科
大學教授
文學博士
久保良英
先生新著

久保博士等同好
の士が將來國家
構成に重要な役
割を持つ兒童を
心理學的・生理
學的に研究して
純粹な學的立場
から貴重な成果
を發表せる本紀
要は恒に教育家
の最新知囊たり

應用心理研究會編
久保良英主任

内容

繪畫の心理的鑑賞
心身相關の問題に對する近時の研究
神經質の性格的素質
身體發育の評定について
インセンティブとしての集團作業
兵庫縣下各工場傷害調査に就て

文學博士 松本亦太郎
醫學博士 高杉良田
醫學博士 丸谷武直
文學士 小松山忠藏
長谷川忠藏

精神の自己診斷表
勞作教育の心理
ピュエラー女史の横瀆
ヤーキスを語る
文學作品と心理描寫

文學博士 內田勇三
文學博士 岡部彌三
文學博士 古保義郎
文學博士 古山義一
文學士 丸山義行

第五卷内容目次

有熱兒童と結核群の相關調査……廣島市幟町小學校長 栗屋信夫
性格の診斷に關する實驗的研究……清洲工業專門學校教授文學士 廣田清一
數學の效果に關する一測定……山口縣學校衛生技師 渡邊道隆
知能検査に現れたる劣等兒の一傾向……山口縣女子師範學校訓導 守田順吉
兒童の教科成績の型に關する研究……福岡縣女子師範學校教授文學士 松本政之
操行評價の研究……東京帝國大學助教授文學士 青木誠四郎
兒童の惡徳意識の發達……東京帝國大學助教授文學士 上條茂
兒童の道徳性に關する一研究……東京帝國大學助教授文學士 久保良英
改訂せる性行検査法……文藝博士、オパ、フイロソフイ、古賀行義
小學兒童に於ける體格及び體力の相關的研究(第一報)……廣島文理科大學教授文學士

應用心理研究 第二卷

兒童研究所紀要 卷十五

合輯定價

1	2	3	4
金九圓五拾錢	金九圓五拾錢	金九圓五拾錢	金九圓五拾錢
5	6	7	8
金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢
9	10	11	12
金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢

大挿圖定價
洋金四圓
裝訂五圓
全冊七圓
一冊七圓

發行所 東京市牛込區中野文館書店 電話 三三三三番 振替 東京三三三番

東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三先生監修
 附屬幼稚園主事

保育叢書

逐時刊行

本叢書は幼稚園や託児所の保母先生方には勿論、家庭のお母さんにも読んで頂くと、幼児教育の權威者によつて、極めて興味あり、明瞭な叙述を以て、幼児保育を實際的に指導し、加ふるに多量の原色版、寫真版、繪畫版、凸版等を以て、見會得るやうに親切な解説が施されてゐます。第一編の一冊を逐時刊行。幼児保育に關係あり關心をせらるゝ方々の一讀をお奨め致します。

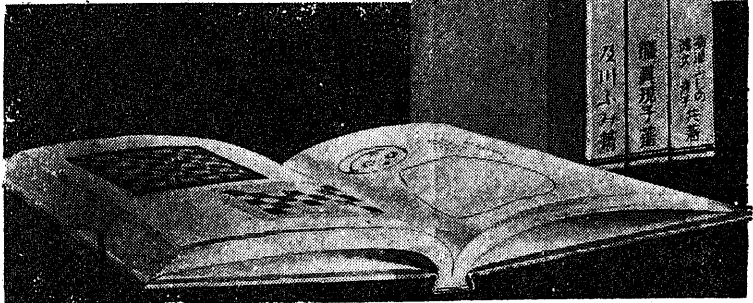
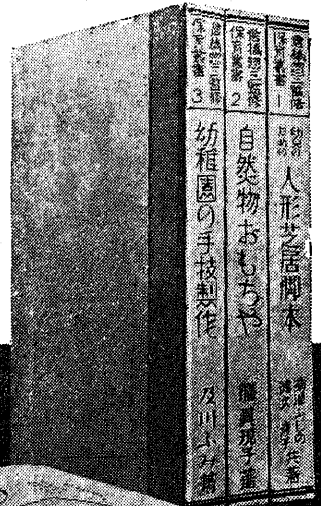
最新刊

倉橋惣三先生監修
 及川みみ先生著
 保育叢書第三編
幼稚園の手技製作

一冊 定價金 一圓 送料 金二銭

既刊

第一編 保育叢書	幼児の ための 人形芝居脚本 菊地ふじの先生共著 徳久孝子先生	定價金 一圓 送料 二銭
第二編 保育叢書	自然物おもちゃ 膳眞規子先生著	定價金 一圓 送料 二銭



昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
 (毎月一回) 十五日發行

昭和七年十月十五日印刷納本
 昭和七年十月十五日發行

定價 三十五錢



株式會社 集英社

東京市神田區會館內 電話九段三三(二) (海註專) 振替東京 〇四六一